

# 平成27年度 事業報告

*Yamagata International Documentary Film Festival 2015*

会場：山形市中央公民館(アズセ日町)、山形市民会館(アズセ日町)

Venues: Yamagata Central Public Hall (Azusei Nichi-cho), Yamagata Citizens' Hall, Forum Yamagata, Yamagata City

主催：協定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭  
共催：山形市  
助成：芸術文化振興基金  
特別協賛：映機工業株式会社  
特別協力：国際交流基金アジアセンター、岩沼平和映画館

Presented by: YAMAGATA International Documentary Film Festival  
Co-presented by: Yamagata City  
Supported by: Japan Arts Council  
Special Support: EKI INDUSTRIAL CO., LTD  
Special Partners: The Japan Foundation Asia Center, Iwanohe Peace Cinema

## 10/8 thu -

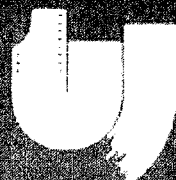
インターナショナル・コンペティション  
アジア千波万法  
ラテンアメリカー社会変革とドキュメンタリー  
Double Shadows / 二重の影ー映画が  
アラブをみるーほどけゆく世界を生きるが  
とちにある Cinema with Us  
やまがたと映画  
ほか

International Competition  
New Asian Currents  
Latino América: Social Change and Documentary  
Double Shadows — talking about the  
Past and Future Stories of the Arab World  
Cinema with Us  
Yamagata and Film  
and more

▲ EKI 映機 SPF

# 認定NPO 山形国際 ドキュメンタリー 映画祭 2015

# クリ



[www.ykdfi.jp](http://www.ykdfi.jp)

山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会 山形市アズセ日町1-1-1 山形市中央公民館 電話 023-622-1111

## 目次

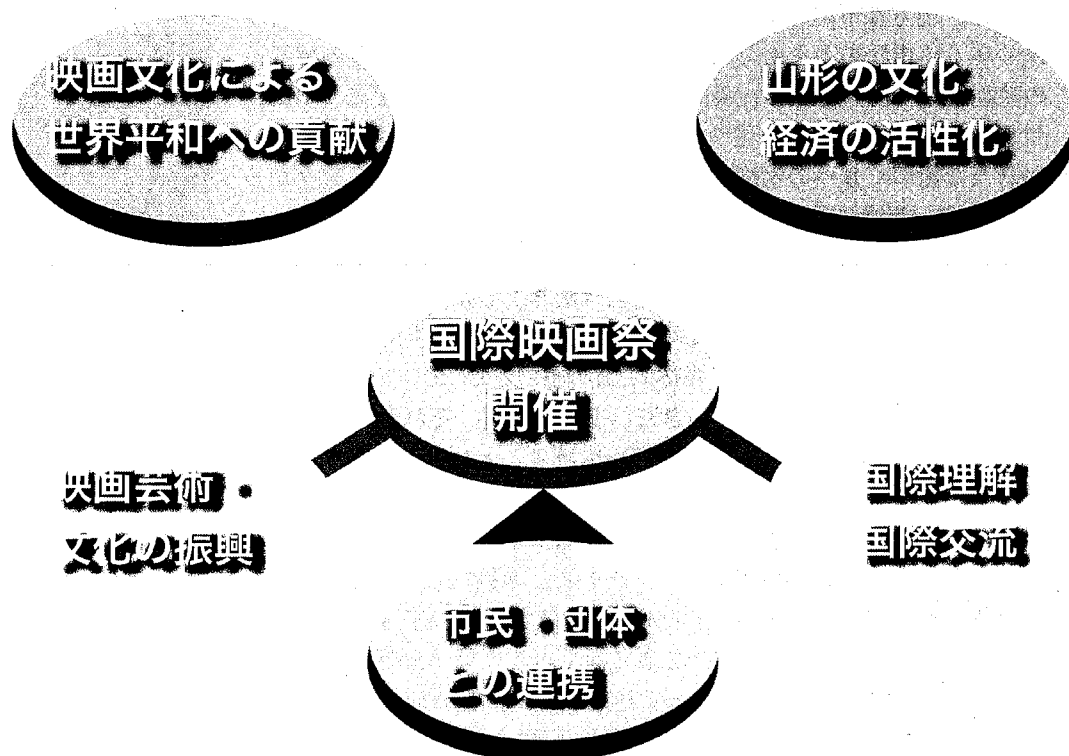
---

[1] YIDFF が掲げるミッション	3
[2] 平成27年度の総括	4
[3] 会議開催状況	5
[4] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 の開催	6
[5] 上映会・鑑賞会推進	44
[6] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業	49
[7] 映像文化推進事業	52
[8] ネットワーク構築事業	53
[9] 出版事業	54
[10] 「311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業	54
[11] 映像文化創造都市推進活動	55
[12] 映像素材デジタル化に伴う研究活動への協力	56
[13] 正会員・賛助会員の拡大	57
[14] 寄付募集活動	58
[15] 山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー管理業務	58

---

## [1] 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭が掲げるミッション

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、ドキュメンタリー映画に焦点をあてた国際映画祭の開催を主体として、映画芸術・文化、国際理解・国際交流に関する、市民と協働した様々な文化活動に取り組んでいます。



### 映像文化創造都市への取組み

山形国際ドキュメンタリー映画祭のミッションは――

山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催を通じて、国際理解や交流を深め、世界の平和に貢献する。また、山形においては映画祭を開かれた窓として、世界の今を知り、自己や都市（地域）のあり方を研いてゆくと共に、山形の文化・経済の活性化に寄与する。

#### 事業方針

- (1) 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、時代を映す鏡であるドキュメンタリー映画を世界中から集め、山形市民、県民をはじめ日本全国や世界各国から参加される方々と優れた映像文化を共有し、ディスカッションやシンポジウム等を通じたより深い国際理解と国際交流を促進します。
- (2) 映画祭の開催を通して、山形の物産や風土を国内外に紹介するなど、様々な情報を発信します。
- (3) 東日本大震災関連作品を含め、世界中から集められた映像をライブラリーに保存し、鑑賞の機会を設け、継続的な共有を行います。
- (4) 映画・映像による生涯教育活動を推進します。特に若年層に対しては、ワークショップなどの開催を通して、豊かな情操教育活動に寄与します。

## [2] 総括：行政や市民の力が集積した映画祭

山形市制施行100周年の記念事業として1989年からスタートした山形国際ドキュメンタリー映画祭は、2015年10月、第14回目の開催を無事終了することができました。これは当法人の平成27年度の最大の成果です。

今回は、NPOによる民間主導の運営に切り替わってから10年、5回目の映画祭開催であり、より社会的信頼性が高く公益的な存在である認定NPO法人となってからは初めての開催実施という、幾つかの節目が重なる映画祭でもありました。

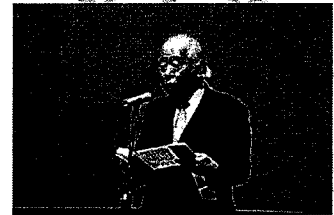
ここに至るまでは、地方都市山形で世界に誇れる文化事業を継続するというミッションを、行政や多くの市民の力を合わせて果たそうとしてきた歴史が積み重なっています。この映画祭は、世界各地の社会的な状況や映像文化の深化を見つめ続けてきました。世界からもその取り組みが見つめ返されるという緊張感と、その存在を支える山形市の新たな街づくりへの積極的な参加があるからこそ、多くの方々からこの映画祭の存在意義と価値が認められているのだと感じています。

現代文明の中で独自の影響力を持つ映像文化について、高い専門性と国際性を備える組織であることはもちろんですが、市民との生き活きとしたコミュニケーションを積み重ねる過程で研かれる感性、そして幅広い多くの人々と多様な映像文化を共有することの今日的な意味を共に考え、具体的な活動に反映していくことを、私たちの映画祭の重要な仕事として意識していきたいと考えます。それが国際映画祭の真価と展望を見つめ続けてくれる社会的な裾野を広げることに繋がるはずです。

前回の山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 を契機として提唱され、今年度においても進められてきた映像文化創造都市についての他団体と連携した取り組みが、その具体的な行動であり、発露のひとつでもありました。芸術文化についての創造的な活動と交流、そこから派生する人材を、都市や農村のアイデンティティ作りや価値の再構築に繋げるというアイデア。これを多方面に亘る業種や分野の間で意識的に共有する基盤整備が、山形市において平成27年度から本格始動したことは、これまでの映画祭開催や映像文化の多様な活動の歴史を俯瞰してみても、大変深い感慨を覚えるものであります。

今回の映画祭はそうした背景の中で開催されましたが、ソフト面ではフィルムの時代からデジタル映像への移行という国際的な変化の中で、当映画祭がそれにどう真摯に向き合うかを自らに課し、映画作家が実現したい映像表現に、限られた上映環境の中でどこまで寄り添うことができるのかということについて、機材も含め現場の具体的な工夫が行なわれていたことを記しておくべきでしょう。また「ドキュメンタリーとは何か」という普遍的な問いを持ち続けると同時に、この世界で人間がどう生きていくのかということを見つめ、表現しようとする中で、映画や映像の未知なる可能性が引き出されているのだということ、この度の映画祭はその上映作品群から改めて感じられるものになっていたのではないのでしょうか。

そして、当映画祭が他団体との繋がりを築く中で日常的にも取り組んでいる様々な事業、例えばデジタル映像の小規模上映に係わる研究、こども映像制作ワークショップ、地元大学との連携による上映イベントや独自の上映会活動、東日本大震災関連映像のアーカイブ推進、映像発掘、市民による映画製作と配給など、1989年当初は予想もできなかったほどに多様な映像文化の試みが、何らかの形で映画祭開催内容にも繋がっており、この映画祭の独自の存在感を作っていたのではないかと、平成27年度を振り返って感じています。



開会式 滞席の会場で理事長ご挨拶



国内外からつめかけた観客たち



到着したゲストを笑顔でお迎え



記録ボランティアさん大活躍



中学生も勇気を出して監督に質問



話題の作品の上映に立ち見も



壇上も会場も熱気であふれる

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭 事務局長 高橋卓也

## [3] 会議開催状況

### 総会

□平成27年5月23日 平成27年度総会 (山形市総合福祉センター3階 会議研修室1)

主要議題：平成26年度事業報告・収支決算・財産目録、監査報告、平成27年度事業計画(案)・収支予算(案)、他

### 理事会

□平成27年4月22日 第95回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度暫定予算執行、平成26年度収支決算(見込)・映像文化推進事業決算、平成26年度事業報告  
平成26年度監査依頼及び監査資料、アドバイザーについて、映画祭2015チケット料金、他

□平成27年5月12日 第96回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度総会議案書、平成25年度総会役割とスケジュールについて、東北芸術工科大学によるシネマ通りリ  
ノベーション施設活用、「世界創造都市シンポジウム in 金沢」参加、他

□平成27年6月23日 第97回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度4月・5月収支決算、映画祭2015開催告知ポスター、映画祭2015インターナショナル・コンペティ  
ション上映作品、記者会見について、他

□平成27年7月14日 第98回理事会 (山形市総合福祉センター 会議研修室2)

主要議題：平成27年度6月収支決算、アジア千波万波上映作品、諸規定の変更について、他

□平成27年8月20日 第99回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度7月収支決算、第一次補正予算(案)、映画祭2015レセプションスケジュールと理事の役割等、他

□平成27年9月8日 第100回理事会 (丹六ビル3F デイリー・ニュース編集室)

主要議題：平成27年度8月収支決算、第二次補正予算(案)、映画祭2015レセプションスケジュールと理事の役割等、他

□平成27年11月25日 第101回理事会 (山形市総合福祉センター)

主要議題：平成27年度9・10月収支決算、平成28年度事業計画(案)・収支予算(案)、映画祭2017開催日程等、他

□平成27年12月21日 第102回理事会 (そば処 紅山水)

主要議題：平成27年度11月収支決算、フィルムライブラリー共催事業について、他

□平成28年1月21日 第103回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度12月収支決算、第三次補正予算(案)、映画祭2017作品募集ポスター制作方針、東京事務局合同会  
議、ドキュメンタリー映画『静かなる変革』製作への協力、山寺芭蕉記念館との連携『ほかいびと伊那の井  
月』上映協力について、他

□平成28年2月24日 第104回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度1月収支決算、第四次補正予算(案)、事務局規定(定年、育休等)や今後の運営体制について、他

□平成28年3月23日 第105回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度2月収支決算、第五次補正予算(案)、平成28年度(次年度)暫定予算執行、平成28年度総会に向  
けたスケジュール、理事体制について、他

## [4] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 の開催

### 開催概要



期間：平成27年10月8日 [木] から10月15日 [木]

会場：山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館 ほか

主催：認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

共催：山形市

助成：芸術文化振興基金、J-LOP+

特別協賛：映機工業株式会社

特別協力：国際交流基金アジアセンター、笹川平和財団 笹川中東イスラム基金

協力：企業メセナ協議会GB Fund、公益財団法人カメイ社会教育振興財団、  
公益信託荘内銀行ふるさと創造基金、財団法人山形県生涯学習文化財団、  
やまがた社会貢献基金、山形大学人文学部附属映像文化研究所、台湾文化部

### YIDFF 2015 の成果

### 山形ファンやリピーターが増える多様な工夫を街ぐるみで

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 には、インターナショナル・コンペティション部門で1,196本、アジア千波万波部門で678本、合計1,874本の作品の応募があり、当映画祭史上最高の応募数となった。第1回目の映画祭のおよそ10倍の作品が集まっており、国際的なドキュメンタリー映画祭が他に増えているにも係わらず、応募数を伸ばしていることは、世界の映画作家たちの当映画祭に寄せる期待や注目が非常に高いことを示している。こうした膨大な新作ドキュメンタリー作品群から、真摯な視聴と選考で選ばれた上映作品は世界の一流水準の作品であり、非常にバラエティに富むもので、この時代の世界の多面性と表現芸術の多様性を伝えることが出来ていると考える。

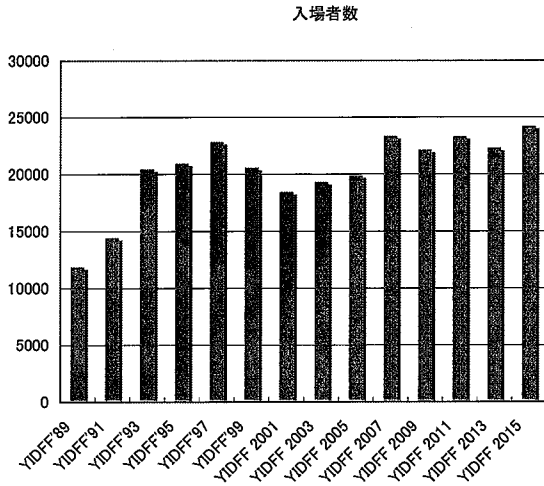
また今回は来場者も24,290人と歴代1位の数を記録している。これはドキュメンタリー映画についての既成のイメージに縛られず、関心や興味を改めて持てる若い世代の参加が増えていることや、地元山形県内の参加観客の膨らみが、この数字を支えているのではないかと分析する。世界水準の作品を上映することで全国や海外から注目を浴びる一方、準備年も含め山形で取り組まれている映画についての多様な活動が、普段ドキュメンタリー映画に自覚的に接していない市民や観客も含めて、2年に一度の国際映画祭にわざわざ足を運ぶ要因となっている。また、団体鑑賞で参加する市内中学生も映画祭の大切な観客として位置づけたい。こうした作品と観客の幅の広さは、専門性にのみ安居せず、映像表現が持つより自由な世界を模索する山形映画祭の独自性的一面であると言える。

また、今回の映画祭では、地元山形の皆様との連携により、映画上映以外のイベント等も充実させることができた。恒例の香味庵クラブのみならず市内飲食店での交流の活性化、山寺ツアーと中学生による英語ガイド活動、上映会場での朝ヨガ、山形産の果物と酒文化を紹介する山形カクテルミーティング、福祉作業所によるパンの出張販売等、県麺業組合によるウェルカムパーティーでの蕎麦打ち実演、山形交響楽団の映画祭記念演奏会、自転車ツーリング、山形市観光ボランティアガイド協会さんの観光案内などの新しい試みも多々あり、映画祭はもちろんのこと、山形滞在そのものを楽しむことが出来るような工夫を積極的に試みることができ、県外・国外の多くの方々に喜んでいただけたと実感している。また、映画祭参加監督の地域や学校への派遣事業が、海外ゲスト監督等、受け入れ側の双方にとって思いのほか刺激的で有意義な交流となっており、感想や感謝の言葉が寄せられている。当映画祭が起点となって様々な出会いが生まれていることを強く念頭におく必要がある。このように映画祭参加を機に、山形ファンやリピーターが増えることにつながる多様な工夫を、まさに街ぐるみの取組みとして今後も積極的に行ってゆきたい。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開催結果

**入場者数 24,290人 (前回比 108.7%)**

過去最多入場者数を記録



■ 入場者数

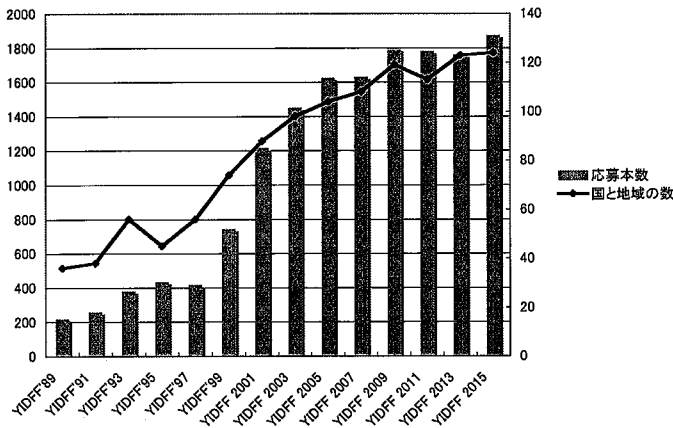


開会式、いよいよ映画祭の幕開け

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
入場者数	11,920	14,486	20,509	21,028	22,875	20,600	18,490
	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
入場者数	19,338	19,963	23,387	22,195	23,373	22,353	24,290

**応募本数 1,874本 124の国と地域から**

過去最多応募本数を記録



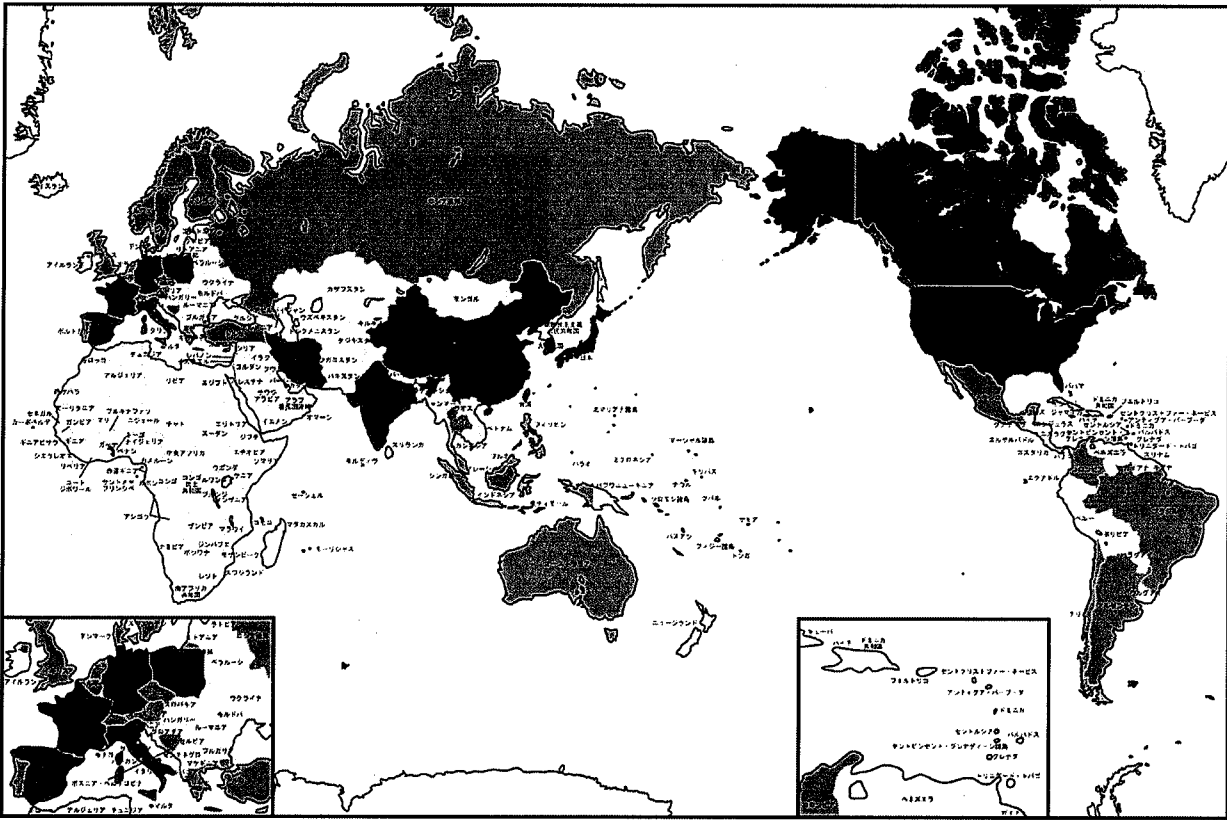
■ 応募本数  
● 国と地域の数



コンペティション作品の上映はいつも大人気

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
応募本数	221	260	381	436	420	745	1,218
国と地域の数	36	38	56	45	56	74	38
	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
応募本数	1,454	1,628	1,633	1,796	1,783	1,761	1,874
国と地域の数	98	104	108	119	113	123	124

# YIDFF 2015 応募国分布図



■200作品以上の国 ■200作品未満100作品以上の国 ▨100作品未満50作品以上の国 ▩50作品未満10作品以上の国 □10作品未満の国

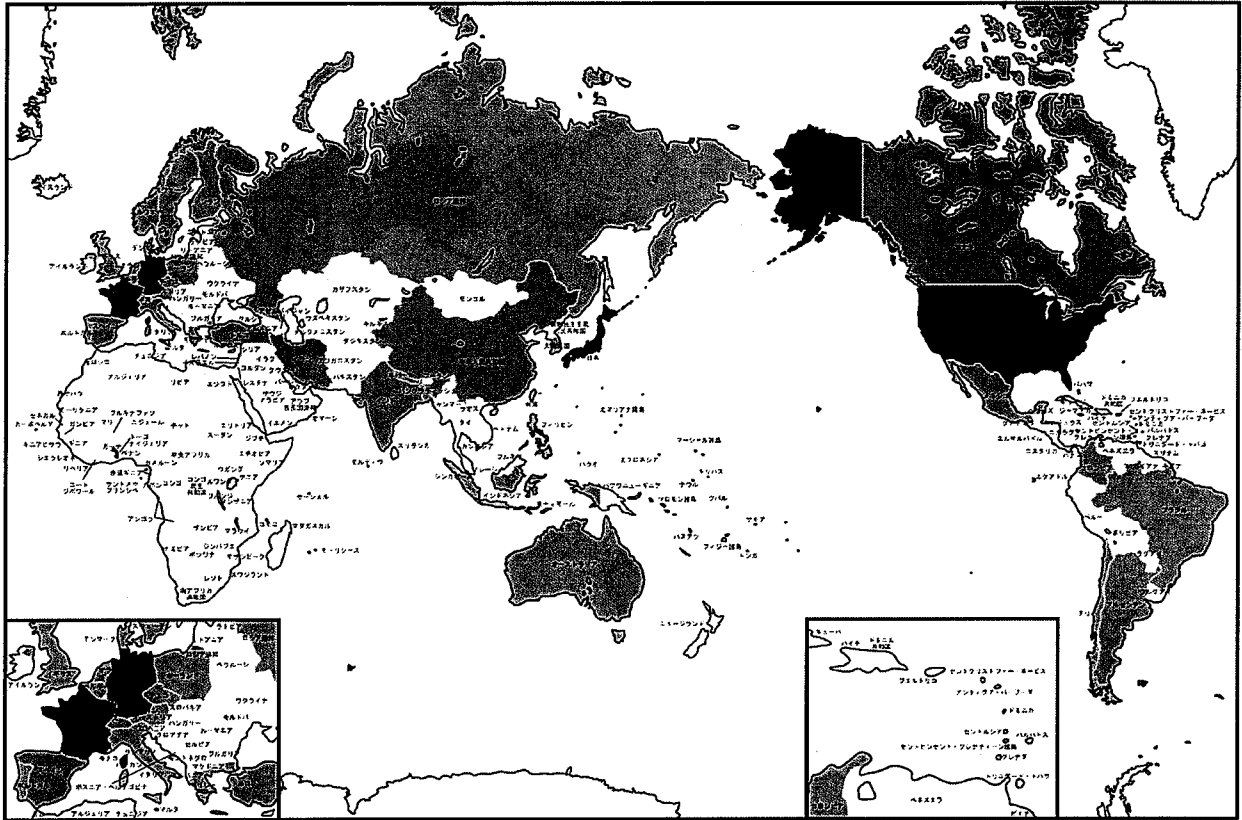
# YIDFF 2015 国別の作品応募状況

	コンペ	アジア	計		コンペ	アジア	計		コンペ	アジア	計
日本	93	192	285	スリランカ	0	9	9	ニュージーランド	1	1	2
ドイツ	146	13	159	ネパール	2	7	9	ペルー	2	0	2
フランス	137	12	149	バングラディシュ	1	8	9	マカオ	0	2	2
中国	37	109	146	ベトナム	3	6	9	モロッコ	2	0	2
アメリカ	120	22	142	ルーマニア	9	0	9	ラオス	1	1	2
韓国	21	69	90	アイルランド	8	0	8	アイスランド	1	0	1
インド	22	65	87	アラブ首長国連邦	8	0	8	アルメニア	1	0	1
イタリア	66	4	70	エジプト	7	0	7	アンゴラ	1	0	1
カナダ	63	5	68	カンボジア	4	3	7	イエメン	1	0	1
台湾	23	43	66	クロアチア	7	0	7	ウガンダ	0	1	1
スペイン	62	3	65	セルビア	7	0	7	ガーナ	0	1	1
イラン	11	50	61	マケドニア	7	0	7	カザフスタン	1	0	1
ポーランド	55	5	60	カタール	6	0	6	カメルーン	1	0	1
イギリス	39	9	48	キューバ	5	1	6	ギニアビサウ	1	0	1
ベルギー	41	4	45	シリア	6	0	6	キプロス	1	0	1
イスラエル	38	6	44	ラトビア	6	0	6	ケニア	1	0	1
スイス	37	2	39	エストニア	5	0	5	サウジアラビア	1	0	1
アルゼンチン	36	0	36	セネガル	5	0	5	ジンバブエ	1	0	1
オランダ	29	1	30	ウクライナ	4	0	4	スーダン	1	0	1
ロシア	28	0	28	ウルグアイ	4	0	4	赤道ギニア	1	0	1
香港	3	24	27	エクアドル	4	0	4	ソマリア	1	0	1
スウェーデン	23	3	26	チベット	1	3	4	ドミニカ共和国	1	0	1
フィンランド	25	1	26	パキスタン	1	3	4	トンガ	1	0	1
ブラジル	22	3	25	ハンガリー	4	0	4	ナイジェリア	1	0	1
メキシコ	24	1	25	南アフリカ	4	0	4	ナミビア	1	0	1
オーストラリア	23	0	23	ミャンマー	0	4	4	ニカラグア	1	0	1
タイ	4	19	23	アフガニスタン	3	0	3	西サハラ	1	0	1
インドネシア	6	15	21	クルディスタン	2	1	3	バーレーン	0	1	1
デンマーク	17	4	21	ジャマイカ	3	0	3	パナマ	1	0	1
フィリピン	6	15	21	スロバキア	3	0	3	パラグアイ	1	0	1
ノルウェー	18	2	20	スロベニア	3	0	3	ハワイ	0	1	1
オーストリア	17	2	19	プエルトリコ	3	0	3	ブルキナファソ	1	0	1
チリ	17	0	17	ブルガリア	3	0	3	ベネズエラ	1	0	1
チエコ	15	0	15	ベラルーシ	3	0	3	モルドバ	1	0	1
トルコ	10	4	14	ポリビア	3	0	3	モンゴル	0	1	1
ポルトガル	13	1	14	ヨルダン	1	2	3	ルワンダ	1	0	1
ギリシャ	10	1	11	アゼルバイジャン	1	1	2				
コロンビア	10	1	11	アルジェリア	2	0	2				
ルーマニア	8	3	11	ギニア	2	0	2				
シンガポール	4	6	10	コンゴ民主共和国	2	0	2				
パレスティナ	7	3	10	ザンビア	2	0	2				
マレーシア	1	9	10	ジョージア	2	0	2				
レバノン	8	2	10	スコットランド	2	0	2				
イラク	5	4	9	チュニジア	2	0	2				

応募総数：1,874作品  
124の国と地域から



# YIDFF 2013 応募国分布図



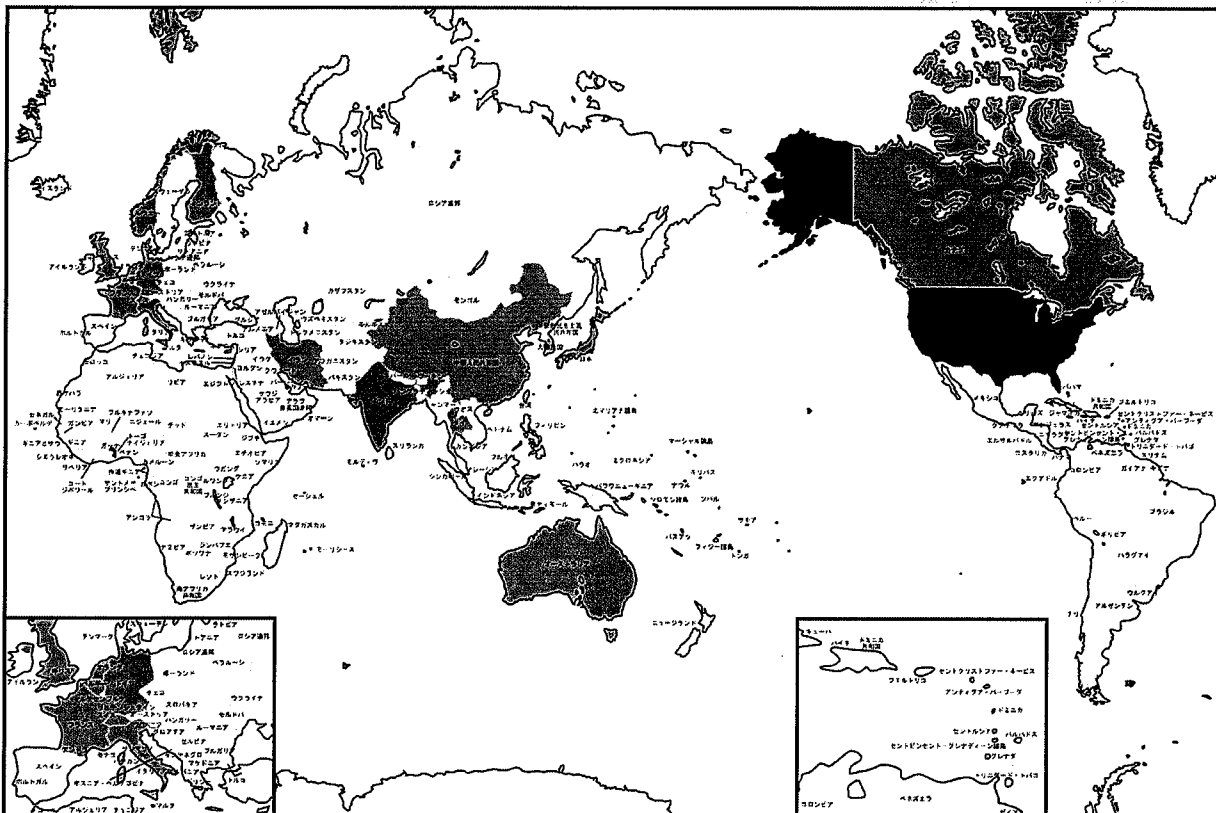
■200作品以上の国 ■200作品未満100作品以上の国 ■100作品未満50作品以上の国 ■50作品未満10作品以上の国 10作品未満の国

# YIDFF 2013 国別の作品応募状況

	コンペ	アジア	計		コンペ	アジア	計		コンペ	アジア	計
日本	106	194	300	リトアニア	8	0	8	バブアニューギニア	2	0	2
ドイツ	135	7	142	バレスティナ	6	2	8	セネガル	2	0	2
アメリカ	110	16	126	セルビア	8	0	8	スロベニア	2	0	2
フランス	100	7	107	ヴェトナム	3	5	8	ウガンダ	1	1	2
インド	17	72	89	カンボジア	5	2	7	ペラルーシ	1	0	1
中国	17	70	87	マレーシア	2	5	7	ボスニア	1	0	1
イスラエル	51	11	62	クロアチア	6	0	6	カメルーン	1	0	1
台湾	21	40	61	ハンガリー	6	0	6	カーボヴェルデ	1	0	1
韓国	17	43	60	ミャンマー	2	4	6	コスタリカ	1	0	1
スペイン	57	2	59	ニュージーランド	6	0	6	キューバ	1	0	1
カナダ	52	4	56	南アフリカ	6	0	6	キプロス	1	0	1
イラン	11	45	56	シリア	4	2	6	東ティモール	0	1	1
イタリア	46	0	46	アラブ首長国連邦	6	0	6	エリトリア	1	0	1
スイス	44	2	46	イラク	1	4	5	アイスランド	1	0	1
イギリス	34	10	44	ベルー	4	1	5	ジャマイカ	1	0	1
オランダ	39	0	39	カタール	3	2	5	カザフスタン	1	0	1
ポーランド	38	0	38	ウクライナ	3	2	5	クウェート	1	0	1
オーストリア	34	0	34	アフガニスタン	4	0	4	ラトビア	1	0	1
ベルギー	29	4	33	アルメニア	3	1	4	マダガスカル	1	0	1
アルゼンチン	28	0	28	エストニア	4	0	4	マラウイ	1	0	1
メキシコ	27	1	28	クルディスタン	2	2	4	マーシャル諸島	1	0	1
フィンランド	25	1	26	グルジア	3	0	3	マルティニーク島	1	0	1
インドネシア	8	17	25	アイルランド	2	1	3	モナコ	0	1	1
オーストラリア	19	4	23	キルギスタン	1	2	3	モザンビーク	1	0	1
ポルトガル	22	1	23	ルクセンブルグ	3	0	3	ニカラグア	1	0	1
フィリピン	4	17	21	モロッコ	2	1	3	プエルトリコ	1	0	1
チリ	20	0	20	ルーマニア	2	1	3	コンゴ共和国	1	0	1
ブラジル	19	0	19	スコットランド	3	0	3	シエラレオネ	1	0	1
スウェーデン	17	2	19	スロバキア	3	0	3	ソマリア	0	1	1
ギリシャ	17	0	17	スリランカ	1	2	3	南スーダン	1	0	1
トルコ	11	6	17	チュニジア	3	0	3	東南アジア	0	1	1
デンマーク	16	0	16	ウルグアイ	3	0	3	タヒチ	1	0	1
ロシア	13	2	15	ベネズエラ	3	0	3	チベット	0	1	1
チェコ	12	1	13	アゼルバイジャン	1	1	2	トンガ	1	0	1
シンガポール	4	9	13	ボリビア	2	0	2	イエメン	0	1	1
レバノン	8	4	13	コンゴ民主共和国	2	0	2				
ノルウェー	11	1	12	エクアドル	2	0	2				
バングラデシュ	2	9	11	ハイチ	2	0	2				
コロンビア	11	0	11	ヨルダン	1	1	2				
香港	1	10	11	ケニア	1	1	2				
ネパール	2	9	11	ラオス	1	1	2				
タイ	6	4	10	マカオ	1	1	2				
エジプト	8	1	9	モンゴル	1	1	2				
ブルガリア	8	0	8	パキスタン	2	0	2				

応募総数：1,761作品  
123の国と地域から

## YIDFF '99 応募国分布図



200作品以上の国
  200作品未満100作品以上の国
  100作品未満50作品以上の国
  50作品未満10作品以上の国
  10作品未満の国

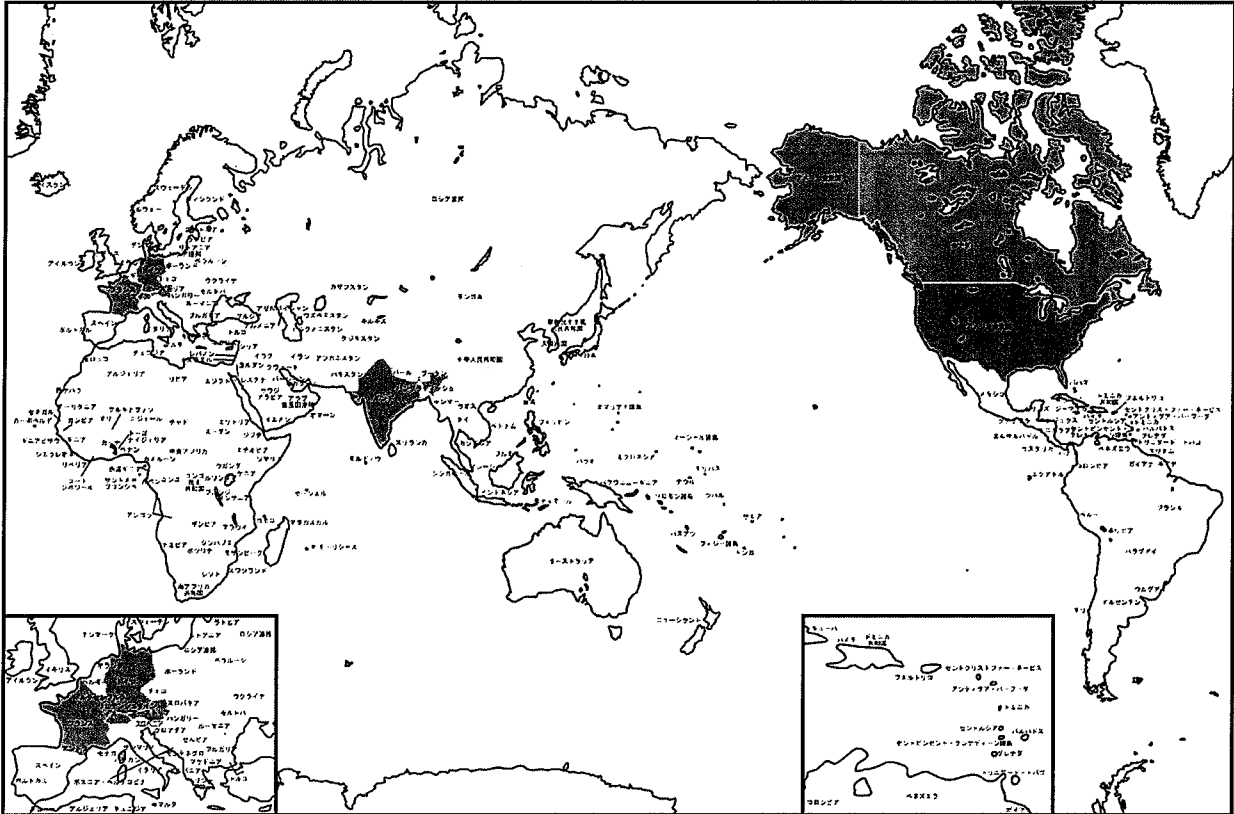
## YIDFF '99 国別の作品応募状況

	計		計		計
アメリカ	115	ポーランド	8	アルバニア	1
日本	82	ロシア	8	アルメニア	1
インド	58	バングラディシュ	5	ベラルーシ	1
フランス	39	フィリピン	5	ボスニア	1
イスラエル	34	マレーシア	4	カメルーン	1
オランダ	33	シンガポール	4	キューバ	1
ドイツ	32	アルゼンチン	3	エジプト	1
イラン	32	ブルガリア	3	グルジア	1
カナダ	30	イングランド	3	ハワイ	1
台湾	30	ギリシャ	3	インドネシア	1
韓国	23	カザフスタン	3	アイルランド	1
イギリス	20	レバノン	3	キルギス	1
中国	18	メキシコ	3	ラトビア	1
香港	18	パレスティナ	3	リトアニア	1
オーストラリア	16	ポルトガル	3	マカオ	1
オーストリア	14	トルコ	3	モルドバ	1
ベルギー	14	チリ	2	ネパール	1
タイ	14	クロアチア	2	パキスタン	1
フィンランド	12	チェコ	2	バプアニューギニア	1
ノルウェー	12	ケニア	2	ルーマニア	1
イタリア	11	モンゴル	2	南アフリカ	1
スイス	11	ニュージーランド	2	チベット	1
スウェーデン	9	北アイルランド	2	アラブ首長国連邦	1
ブラジル	8	スペイン	2	ベネズエラ	1
デンマーク	8	ベトナム	2		

応募総数：745作品

74の国と地域から

## YIDFF '89 応募国分布図



200作品以上の国
  200作品未満100作品以上の国
  100作品未満50作品以上の国
  50作品未満10作品以上の国
  10作品未満の国

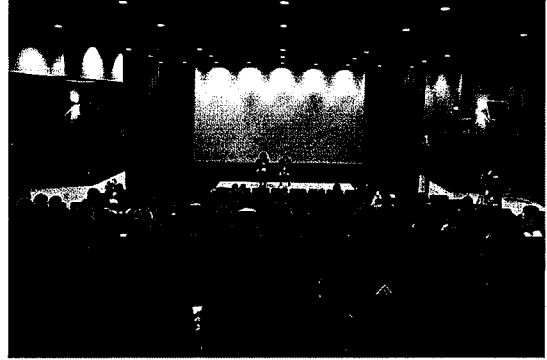
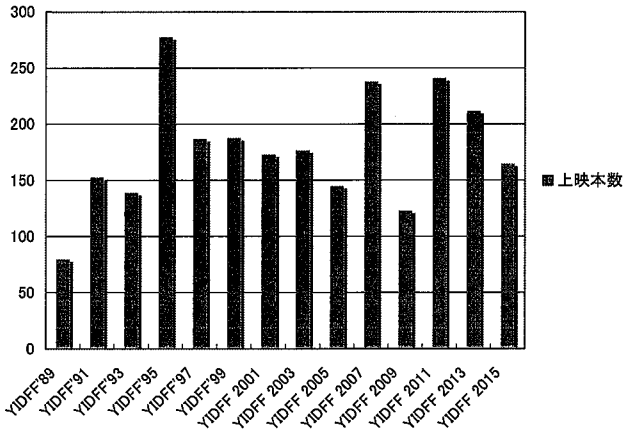
## YIDFF '89 国別の作品応募状況

	計		計
アメリカ	56	ハンガリー	3
ドイツ (西:24 東:2)	26	ハイチ	2
フランス	14	デンマーク	2
カナダ	14	ビルマ	1
インド	11	フィリピン	1
スイス	11	韓国	1
オーストリア	11	ブラジル	1
イギリス	8	ペルー	1
ベルギー	8	チリ	1
日本	7	ニカラグア	1
中国	7	ナイジェリア	1
オーストラリア	6	カメルーン	1
メキシコ	6	ブルキナファソ	1
スウェーデン	6	パレスティナ	1
ソ連	6	イタリア	1
ポーランド	5	フィンランド	1
オランダ	4	チェコスロバキア	1
ベトナム	3		

**応募総数：221作品**  
**36の国と地域から**

# 上映本数 165本 (前回比 77.8%)

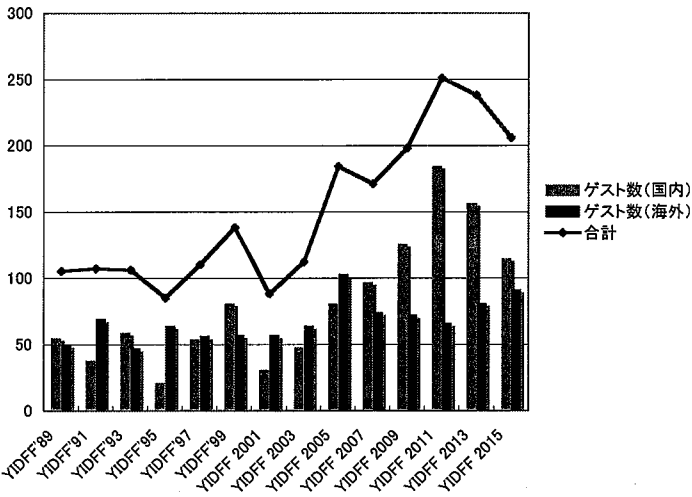
上映本数



監督との質疑応答も映画祭の醍醐味

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
上映本数	80	153	139	278	187	188	173
	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
上映本数	177	145	238	123	241	212	165

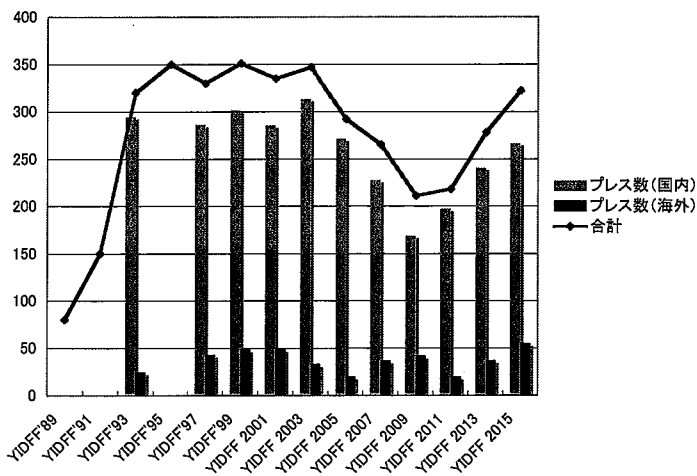
# ゲスト数 206人 (前回比 86.6%)



2015年もたくさんの海外ゲストが来日

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
ゲスト数 (国内)	55	38	59	21	54	81	31
ゲスト数 (海外)	50	69	47	64	56	57	57
合計	105	107	106	85	110	138	88
	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
ゲスト数 (国内)	43	81	97	126	185	157	115
ゲスト数 (海外)	64	103	74	72	66	81	91
合計	112	184	171	198	251	238	206

## プレス数 322人 (前回比 115.8%)



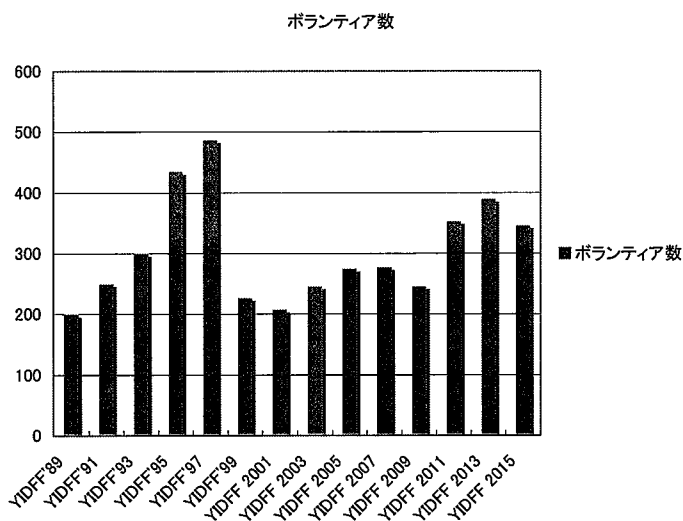
海外からのプレス、業界関係者の来県も増えてます

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
プレス数 (国内)	内訳データ無	内訳データ無	295	内訳データ無	287	302	286
プレス数 (海外)	内訳データ無	内訳データ無	25	内訳データ無	43	49	49
合計	80	150	320	350	330	351	335

	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
プレス数 (国内)	314	272	228	169	198	241	267
プレス数 (海外)	33	20	37	42	20	37	55
合計	347	292	265	211	218	278	322

## 参加ボランティア数 346人 (前回比 88.7%)



ボランティアさんたちのきめ細やかなサポート

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
ボランティア数	200	250	300	435	487	227	208

	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
ボランティア数	246	275	277	246	353	390	346

## 事業プログラム

### ① インターナショナル・コンペティション

応募本数は過去最多 **1,196本** **116の国と地域**から [YIDFF 2013: 1,153本 117の国と地域から]

会場: **山形市中央公民館 (アズ七日町)、山形市民会館大ホール**

上映作品数: **15作品** 入場者数: **9,088人** (前回比**113.4%**)

■山形映画祭第1回目からのプログラム。世界中から長編を対象に募集し、応募された中から厳選。バラエティに富む世界の最先端の表現が凝縮した珠玉の15作品を上映。



『わたしはここにいる』監督質疑応答



観客から熱のこもったコメントも



『いつもそこにあるもの』監督質疑応答



監督のことばに聞き入る

### ② アジア千波万波

応募本数 **678本** **59の国と地域**から [YIDFF 2013: 608本 63の国と地域から]

会場: **フォーラム山形 5番館 3番館**

上映作品数: **20作品** (特別招待含む) 入場者数: **3,749人** (前回比**112.5%**)

■山形に初登場の作家、作品たちばかりが集った今年のアジア千波万波。新進気鋭の作家陣による、エネルギーとパッションに満ちあふれた全世界注目の18作品と特別招待2作品を上映。



『ミナーンについてのお話』マザーヘリー監督



熱気あふれる監督たち



止まらない質疑応答



『わたしはまだデリーを見ていない』ビルキス監督

### ③-1 特別招待作品

会場: **山形市民会館大ホール、フォーラム山形 5番館**

上映作品数: **7作品** 入場者数: **378人** (前回比**21.6%**)

■巨匠監督の名作や注目すべき最新作を一挙に上映。



大ベテラン羽田澄子監督



お話を聞けるめったにないチャンス



『三里塚に生きる』代島治彦監督



観客の声にじっくり耳を傾ける

### ③-2 審査員作品

会場: **山形市中央公民館 (アズ七日町)、山形市民会館大ホール、フォーラム山形 5番館**

上映作品数: **9作品** 入場者数: **992人** (前回比**83.3%**)

■インターナショナル・コンペティション、アジア千波万波の国際審査員の最新作、名作を上映。

#### ④スペシャル・プログラム

ラテンアメリカ人々とその時間：記憶、情熱、労働と人生

会場：山形市民会館小ホール

上映作品数：34作品 入場者数：1,869人

■1960年代に伝説的な作家たちを多数輩出したラテンアメリカのドキュメンタリー。これまで日本でほとんど紹介されてこなかった1960～80年代の社会変革へ挑んだ代表的なラテンアメリカ・ドキュメンタリーから現在までを俯瞰し、ラテンアメリカを糸口に今後のドキュメンタリーの可能性を探るプログラム。滅多に鑑賞できない作品が多数あったため、国内外から多くの観客が詰めかけた。



C.F.デルピノ監督の熱の入った解説



南米の歴史に思いを馳せる



南米ドキュメンタリー作家たちのトーク



会場はいつも人でいっぱい

アラブを見る—ほどけゆく世界を生きるために

特別協力：笹川平和財団 笹川中東イスラム基金

会場：フォーラム山形 4番館、山形美術館 展示室1

上映作品数：10作品 入場者数：906人

■「アラブの春」から4年。変わりゆく世界と真摯に向き合った新作と、70年代のレバノン・パレスティナを撮影した旧作を併せて上映することで、国家や共同体を越えた人々の繋がりの可能性を模索する。エジプト、シリア、パレスティナ、モロッコなどの作品を上映した。



ダリラ・エッターデル監督質疑応答



観客から鋭い質問が飛ぶ



トーク「監督たちに聞いてみよう！」



パレスティナ問題専門家による解説も

Double Shadows／二重の影—映画が映画を映すとき

会場：山形市中央公民館（アズ七日街）山形美術館 展示室1、展示室2

上映作品数：18作品 入場者数：2,041人

■ドキュメンタリー映画における、映画を被写体として、あるいは主題として選択する行為を追ったプログラム。主に“映画”を扱った作品、“映画作家”を扱った作品のうち、映画史を語る上で非常に重要な作品を上映した。本企画のマノエル・ド・オリヴェイラ監督作品『訪問、あるいは記憶、そして告白』はアジア圏初上映。その話題性の高さからオープニング作品として上映された。



欧州映画批評界の重鎮A.アブラ氏



入場はあわてず順番に



C.ガイユール&O.ポレル監督質疑応答



映画ファンからの熱い質問も

## 日本プログラム

会場：フォーラム山形 4番館

上映作品数：5作品 入場者数：889人

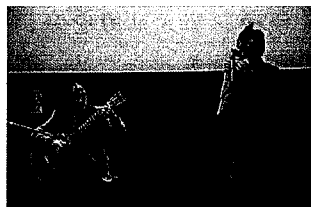
■日本のドキュメンタリー作品の様々な試みを世界に向けて紹介するプログラム。型にとらわれず、深い思索とみずみずしい躍動を感じさせる5作品を上映した。日本作品の海外展開を促進するJ-LOP+補助を受けて英語字幕作成を行い、海外批評家や映画祭、配給などに積極的に紹介した。



『THE COCKPIT』三宅唱監督



『桜の樹の下』田中圭監督  
(前回2013ラフカット作品)



『PYRAMID』笹久保伸監督の演奏



見事な演奏に感激

ヤマガタ・ラフカット！

会場：山形美術館 展示室5

上映作品数：6作品 入場者数：141人

■完成作品ではなく、撮影、編集途上にあるプロジェクトを公募し、6本のラフカット（粗編集版）を上映して、作り手やゲストを交えて公開対話を行うプログラム。世界中から映画祭に集う人たちと共に見て、感じ、語り、聞く場を作ることを目的としている。あらゆる立場の人々がジャンルを超えて交わる場から、映像と世界との新しい係わりを模索する試みとなった。前回2013時に本企画で対話を行った作品が、その後完成を経て、今回の日本プログラムで上映されるに至った。大きな成果である。



映画を撮る、見るって何だろう？



議論はその場で図式化される



腰をすえて、じっくりと



参加者から貴重な意見が飛び出す

やまがたと映画

助成：財団法人山形県生涯学習文化財団 協力：東北芸術工科大学、山形大学、日本映画大学、映画秘宝  
こども映画教室、北海道コミュニティシネマ札幌

会場：山形美術館 展示室1、展示室2、山形市民会館大ホール、フォーラム山形 5番館

上映作品数：22作品 入場者数：2,437人（前回比209.5%）

■山形と映画の関わりにおける過去・現在・未来をより多角的に捉え、検証するプログラム。5回目となる今回は、若年層から高齢者層まで、全年齢層に働きかける試みを行った。「やまがたと戦後」では太平洋戦争の記憶を追う山形制作の作品を上映、「嘘つきはドキュメンタリーのはじまり？」では当映画祭が意識的に取り組んできた映画を見つめる視点を“フェイク”という観点からわかりやすく検証し、「こどもと映画」ではこれからの映像文化の担い手である子どもたちとの映画制作の可能性を模索、「幻灯は訴える」では“幻灯”を現代に復活させ、メディアに託した救済の念を回顧した。



『無音の叫び声』満員御礼！



『超コワすぎ！FILE02』監督と出演者二人



『こどもの傾奇争があった』制作学生たち



映画ワークショップのちいさな監督たち



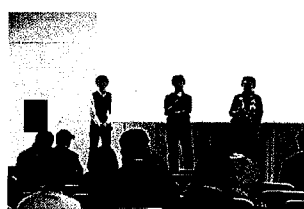
**会場：山形美術館 展示室1、展示室5**

**上映作品数：10作品 入場者数：915人**

■東日本大震災、それにともなう原発事故という未曾有の体験と、そこから生まれ続ける課題を改めて見つめ、伝えていくプログラム。今回が3回目の開催となる。2014年にスタートさせた「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業と合わせ、私たちは映画を通して何を考え、語り、伝えようとしているのか、その可能性を見つめる企画となった。作品の上映と共にシンポジウムを行い、識者と作り手、観客の垣根なく、率先した意識共有と対話がなされた。



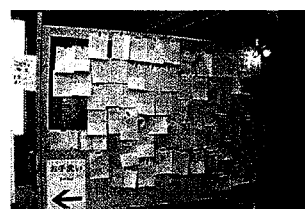
切れ味鋭いディスカッション



『フタバから遠く離れて 原発避難1475日』  
船橋淳監督



映像アーティスト、社会学者との討論



上映後集められた感想・コメント

**その他企画上映・イベント**

◇YIDFFネットワーク企画

**会場：フォーラム山形 5番館**

**上映作品数：1作品 入場者数：100人**

■市民有志が立ち上げた映画祭応援団体による上映企画。毎回映画祭と協力して様々な上映を行ってきた。今回も独自の視点で選んだ1作品を上映した。

◇[アジア・フィルム・コミュニティ] きらめく星座群

共催：国際交流基金アジアセンター

**会場：山形美術館 展示室5、旧西村写真館、フォーラム山形 5番館**

**作品数：3作品（インスタレーション2作品） 入場者数：461人**

■未だ描かれていない東南アジア映画史に光を当てるコラボ企画。

- 「時をつなぐフィルムの糸—Lab Laba-Labaインスタレーション」
- 「東南アジアにおけるアーカイブの未来」（上映&トーク）
- 「ファウンド・フッテージの想像力」（シンポジウム）



『風の波紋』製作スタッフ喜びの登壇



「ファウンドフッテージの想像力」  
シンポジウム



Lab Laba-Labaインスタレーション  
(旧西村写真館)

◇ヤマガタ映画批評ワークショップ [批評コレクティブ]

**会場：山形まなび館、フォーラム山形 5番館、山形美術館 展示室5**

**参加者数：32人**

■映画祭というライブな環境に身を置きながら、ドキュメンタリー映画を通して世界について思考し、執筆し、読むことを奨励する企画。今回は特別上映とシンポジウムも合わせて行った。

- 特別上映「ストーム・チルドレン第一章」
- シンポジウム「実験的な映像としてのドキュメンタリー」

◇スペシャル・イベント

**会場：フランク・ロイド・ライト、フォーラム山形 4番館、山形美術館 展示室5 入場者数：292人**

- 「ラテンアメリカ特集関連企画 トミ・レブレロ スペシャルライブ」
- 「アラブ特集関連企画 グッバイ・シュレンドルフ+Ky ライブ」
- 「マルチプルタップ in 山形」（マルチプルタップライブ+上映）
- 「講談付き上映『レバノン1949』」（講談師・宝井琴柑 [山形大学卒、元映画祭ボランティア]）

⑤関連企画

開会式・表彰式

会場：山形市中央公民館（アズ七日町） 入場者数：【開会式】615人【表彰式】457人

■開会式ではオープニング上映としてポルトガルの巨匠マノエル・ド・オリヴェイラ『訪問、あるいは記憶、そして告白』をアジア圏で初めて上映した。本作の鑑賞を目指し、国内外から多くの観客が詰めかけ、国際的にその存在感を示す華々しい開幕となった。表彰式では外部賞も含め、6部門12の賞を発表した。その結果は下記の通り。



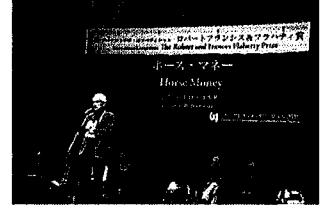
開会式、映画の祭典の幕開け



佐藤新市長による式辞



招聘ゲスト監督たちの紹介



喜びの授賞式

◇YIDFF 2015 受賞作品

■インターナショナル・コンペティション

審査員：トム・アンダーセン、ニコラス・エチェバリア、フォン・イェン、牧野貴

ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）

『ホース・マネー』

監督：ペドロ・コスタ



受賞者全員で記念撮影

山形市長賞（最優秀賞）

『真珠のボタン』

監督：パトリシオ・グスマン



小川紳介賞のマーヤ・アブドゥル=マラク 監督

優秀賞

『祖国—イラク零年』

監督：アッパース・ファーディル

『銀の水—シリア・セルフポートレート』

監督：オサーマ・モハンメド  
ウィアーム・シマヴ・ベデルカーン

特別賞

『女たち、彼女たち』

監督：フリヤ・ペツェ

■アジア千波万波

審査員：川上皓市、ガルギ・セン

小川紳介賞

『たむろする男たち』

監督：マーヤ・アブドゥル=マラク



大賞のペドロ・コスタ監督

奨励賞

『蛇の皮』

監督：ダニエル・ファイ

『ラダック それぞれの物語』

監督：奥間勝也

特別賞

『きらめく拍手の音』

監督：イギル・ボラ

『ミーナーについてのお話』

監督：カウエー・マザーヘリー

『鉾（あらがね）』

監督：小田香

『わたしはまだデリーを見ていない』

監督：フマイラ・ビルキス

■市民賞

『祖国—イラク零年』

監督：アッパース・ファーディル



壇上にて受賞の喜びを分かち合う

■日本映画監督協会賞

『私の非情な家』

監督：アオリ



表彰式後の記者会見にて

## ウェルカム・パーティー・さよならパーティー

### 会場：山形グランドホテル

■開会式後にゲスト、プレス・関係者を招いて「ウェルカム・パーティー」を開催した。山形県麺業組合の協賛による「そば打ち」の実演などを催し、映画祭を盛り上げる立役者たちへのおもてなしとして、強く山形の食と文化を印象づけた。また表彰式終了後、ゲストに加え、映画祭の様々な局面で活躍していただいた市民ボランティアを招待し、「さよならパーティー」を開いた。「やまがた舞子」による演舞が披露され、国内外の参加者たちを労った。およそ一週間にわたる映画祭の中で育まれた出会いとその喜びを分かち合い、2年後に再会することを誓い合った。



感激の再会「お久しぶりです！」



そば打ちの妙技を間近で



山形の味覚に舌鼓



再会を誓って記念撮影

### 香味庵クラブ（市民と映画関係者の交流の場）

#### 会場：香味庵まるはち 来客数：1965人

■「香味庵で会いましょう」が世界の映画関係者の中で合言葉になるほどに定着した映画祭名物の交流の場。いまでは世界各地の映画祭でこのスタイルが模倣されるほどになった。ゲスト、観客、ボランティアが垣根なく、酒を酌み交わしつつ映画談義ができる夢のような空間に、今回も溢れんばかりの人々が集った。運営は全て市民ボランティアの手で行われた。



外にまで溢れ返るゲストと観客



香味庵クラブの皆さん大活躍



ここから新しい作家と作品が生まれる



中国ドキュメンタリーについてのトークも

### デイリーニュースの発行

#### 編集室：丹六ビル3F

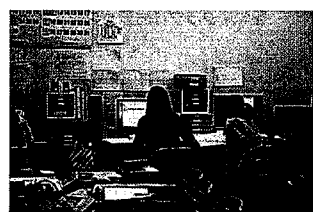
■連日盛り上がりを見せる映画祭の様子を伝える日刊紙の発行を行った。最新トピックから監督インタビューまで、魅力的な話題が紙面を飾った。各会場にて、合計7号を無料で配布。その他、映画祭の関連施設や市役所庁舎でも手にすることができるようにした。編集室を丹六ビル3Fに設け、連日深夜まで編集に明け暮れる。来場するゲスト、観客はこのデイリーニュースを連日楽しみにしていたようだ。それは即時在庫部数切れとなる状況からもうかがえた。運営は全て市民ボランティアの手による。



連日行なわれる編集会議



監督インタビューも和気あいあいと



送られてくる原稿をチェック



デイリーニュース完成！

ゲスト観光ツアー →次項⑥ゲスト招聘参照

他団体からの協賛・協力及び共催企画

**協賛金 5,578,673円**

**協賛 129件**

**協力 [団体・企業] 179件**

**[個人] 224件**

※協力者名の詳細については『山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 公式カタログ』を参照

◇各種協賛・協力の具体的事例（一部）

- メキシコ大使館（ロビー展示物借用）
- ブラジル大使館（東京記者会見会場提供）
- 山形市旅館組合（映画祭向け低料金設定）
- やまがた舞子（さよならパーティーでの演舞）
- 城西牛乳株式会社（パーティー用の牛乳提供）
- ナナビーンズ内子育てランドあ〜べ（託児連携）
- 山形まるごと館紅の蔵（映画祭応援イベント企画）
- NEC山形（デジタル上映データ管理用サーバ提供）
- 山形県農業協同組合（パーティー用の果物や食材の提供）
- 映機工業株式会社（各会場の映写用プロジェクタを提供）
- 茶道裏千家淡交会山形支部（各上映会場でのチャリティ茶会）
- 山形麺類食堂協同組合（蕎麦打ち実演、ボランティア食券使用）
- 会場ボランティア有志（市民会館ロビーでのコーヒーショップ）
- 八文字屋書店（映画祭会場内における関連書籍の販売ブース設置）
- 株式会社A&C（ソフトバンク）（期間中のスタッフ用携帯電話提供）
- 七日町周辺各飲食店（映画祭公式グルメマップ協賛及び特別メニュー考案）
- 山形食育ネットワーク（来場者に対して無償でのつや姫おにぎり芋煮おふるまい）
- ヨガインストラクター有志（中央公民館5Fサロン、市民会館前広場での朝ヨガ体験）
- mont-bell（大賞、小川紳介賞、市民賞受賞者への賞品としてアウトドアジャケット提供）
- わたしの会社、ひぐらし珈琲（山形美術館前広場、市民会館前広場でのパンとコーヒーの売店設置）
- ビューティフル・コミッション（市民賞賞品提供、香味庵）、（社）山形青年会議所（香味庵クラブの運営）



八文字屋による出店



珈琲のサーブがとても喜ばれた



朝ヨガで心も体もリフレッシュ



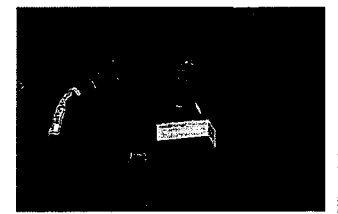
職人の華麗な技



香味庵クラブはお酒も自慢



大人気のおにぎり芋煮おふるまい



予想外の嬉しい記念品、鎗物とジャケット

◇協賛についての所見

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 公式カタログへの広告協賛や映画祭チケット購入協賛は、今回厳しい状況だった。特にチケット協賛については普及協力団体に拡大するには協賛金や広告集めを現在の1班体制から2班体制に増やすこと、また大企業とのパートナーシップの確立には当法人の実績や可能性を示すビジュアル資料やデータを調べ、準備年から接触を図る必要がある。また、今後当組織の運営支援の獲得については海外に発信する新たな方法やチームが必要と考える。

## ◇地元団体との共催企画など

### YIDFF 2015 山形交響楽団スペシャルコンサートの開催

日時：10月13日 [火] 開演19:00 会場：山形テルサ

指揮：飯森範親（山形交響楽団音楽監督）

出演：工藤あやの（山形市出身演歌歌手）、永田美穂（上市市出身ピアニスト）

ホセ・リカルド・カスタンニエダ（エルサルバドルより特別ゲスト、オーボエ奏者）

合唱：山響アマデウスコア 管弦楽：山形交響楽団

主催：公益社団法人 山形交響楽協会、山形交響楽団県民応援会議、山形新聞、山形放送

協力：山形県民共済生活協同組合、エルサルバドル共和国

■映画祭ゲストや関係者約100名を招待し、地元の交響楽団フルオーケストラによる演奏を味わっていただき、芸術文化の街をアピールした。

### 山形カクテルミーティング × 山形国際ドキュメンタリー映画祭 コラボ企画

日時：10月11日 [日] 会場：まる八やたら漬（旅籠町立呑処・香味庵まるはち）

10月12日 [月・祝] レストラン コンフェッティ（パレスグランデール）

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開催期間中、果樹王国山形の果物をふんだんに使ったカクテルが楽しめる人気のイベント「山形カクテルミーティング」を開催し、国内外の映画祭参加者をはじめ、多くの市民に山形の新しい酒文化を味わう機会を提供し、大好評を博した。

### 街なか賑わいフェスティバル

「街なか賑わいフェスティバル」10月10日 [土] 参加

■七日町商店街や一番街商店街等の各団体によって構成される「街なか賑わいフェスティバル」実行委員会のメンバーとして、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開催期間中の10月10日 [土] 10:00～17:00に、歩行者天国となった七日町通りの映画祭メイン会場アズビル前にて、映画祭 2015グッズの販売や情報の提供等を行い、各団体と共に街中賑わい創出に寄与する活動に取り組んだ。

### やまがたフラワーフェスティバル2015 への協力

日程：10月10日 [土] 10:00～16:00 11日 [日] 10:00～14:00

会場：アズ七日町3F（山形市中央公民館入居ビル）

内容：やまがたの多様な花木の展示と即売会、花育教室、コサージュ作り

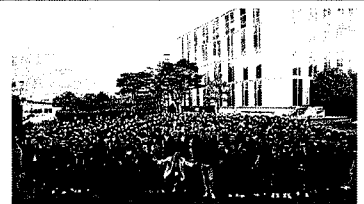
■山形県が主体となって行った「やまがたフラワーフェスティバル2015」について、広報や映画祭参加者への情報提供などの協力を行った。

### 山形市立第四中学校の団体鑑賞

日程：10月13日 鑑賞作品：『ラスト・タンゴ』

会場：山形市民会館大ホール

■山形市立第四中学校の1、2年生約600人が映画祭の団体鑑賞に訪れた。今回で3回目となる。上映後のQ&Aでは生徒からの感想や質問が出され、監督を含む多くの関係者を多に喜ばせた。多感な時期の映画祭作品鑑賞は、生徒たちの心に強く印象づけられたのではないかと期待する。今後も続けられるよう調整を図っていく。



## ⑥ゲスト招聘

**ゲスト数：206人（うち海外91人）** 【YIDFF 2013 **ゲスト数：238人（うち海外81人）**】

■世界中からゲスト（映画監督など）を招聘し、様々なイベントや交流を通して、映画や文化についての情報や課題を多くの参加者と共有し、山形から全国に、また世界に向けて多様な媒体によってそれを発信した。今回は前回の2013年開催以上に海外からのゲストを多く招聘することができた。

### ◇案内窓口の設置（山形駅構内等）

**日時：10月8日（開催初日）12:00～、10月9日～11日（連休中日）9:00～19:00**  
**10月12日（連休最終日）9:00～12:00** 【※一部20:00まで設置】

■映画祭ゲストだけではなく、観客や一般市民も利用できる案内窓口を要所に設置した。映画祭の情報を欲する方々に、より丁寧なケアを行うことができた。運営は全て市民ボランティアによって行われた。ゲストはバス or タクシー乗り場へ誘導。それ以外の方はバス乗り場などへご案内した。案内窓口設置は非常に好評だった。観光客や一般市民に対しても映画祭を宣伝できたことが一番の効果であったと考える。山形市観光協会のボランティアガイドとも連携できたことの成果は大きい。



観光案内も兼ねています



ワシントンホテル行く方はこちらへ！



ようこそ山形へいらっしゃいました



このポスターが目印！

### ◇山寺ツアー（地元中学生との交流）

**申込者：32名（うち同行ボランティア5名）** ※定員20～25名

**参加者：30名（体調不良につき2名キャンセル）**

**国籍：アルゼンチン、台湾、ドイツ、フランス、日本**

■来形したゲストを山寺までご案内し、山形市立山寺中学校の全校生徒との交流を行った。中学生たちは英語ガイドにより、「観光地やまでら」をアピール。今回初めて雨が降ってしまったが、モヤの立ちこめた山寺も趣があつて良いとの感想をいただいた。2013年開催時も参加した監督が「山寺大好きで」とのことで今回も参加していた。地元の中学生と交流できること、和太鼓演奏を観られること、山形の秋の味覚「芋煮」を河原で堪能できること、どれをとっても非常に満足されている。



山寺の魅力存分に伝えます



これは立石寺というお寺です

### ◇サイクリングツアー

■ボランティア主導によるサイクリングツアーを企画した。参加者は3名（定員5名）。山辺町を自転車にて散策し、徒歩では容易に楽しむことができない山形の風景をアピールした。企画準備、受付はボランティアが行った。清々しい秋の山形を堪能できたとのことで、非常に好評だった。

⑦入場チケットの販売

**入場券販売実績 13,423,500円 (前回比114.3%)**

■ 次の券種を発行し、販売を展開した。消費税8%分を上乗せし、価格帯を新規に設定した。

前売券 1回券：1,100円 3回券：2,700円 10回券：6,500円 共通鑑賞券：11,000円

当日券 1回券：1,300円 3回券：3,200円 10回券：9,000円 共通鑑賞券：13,000円

シルバー料金 (1回券のみ)：1,100円 (60歳以上)

障害者割引料金 (1回券のみ)：1,100円 (障害者手帳提示)

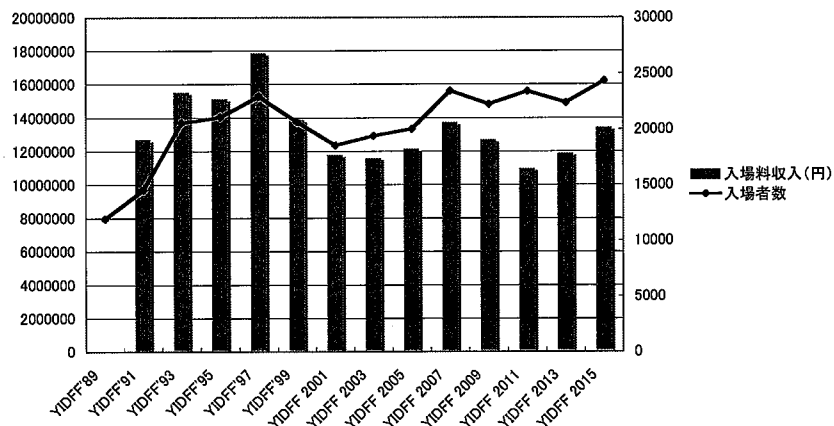
【券種別販売内訳】

1回券	1,929枚	2,343,900円 (前売：900,900円、当日：1,443,000円)
3枚綴券	871枚	2,610,700円 (前売：953,100円、当日：1,657,600円)
10枚綴券	586.6枚	4,047,900円 (前売：3,201,900円、当日：846,000円)
共通券	445枚	4,421,000円 (前売：2,376,000円、当日：624,000円)
		学割 [国内]：1,376,000円、学割 [海外]：45,000円)

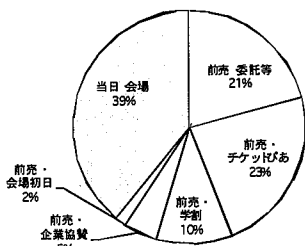
【販売箇所別売上】

委託 (前売)	：2,059,800円	委託 (学生バラ売)	：497,900円
山形市役所厚生会	：256,000円	チケットぴあ	：3,104,600円
企業協賛	：624,600円	映画祭初日販売 (8日)	：216,500円
当日券	：4,570,600円	当日券割引 (会員)	：33,400円
当日券割引 (あ〜べ)	：1,100円	当日券割引 (シニア)	：638,000円
学生団体割 (国内@8,000円)	：1,376,000円	学生団体割 (海外@5,000円)	：45,000円

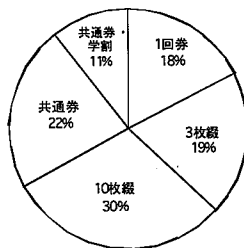
	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
入場料収入 (円)	11,721,862	15,531,792	15,132,562	17,399,291	13,902,967	11,784,009	
	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
入場料収入 (円)	12,151,896	13,740,957	12,714,500	10,984,500	11,899,300	13,423,500	



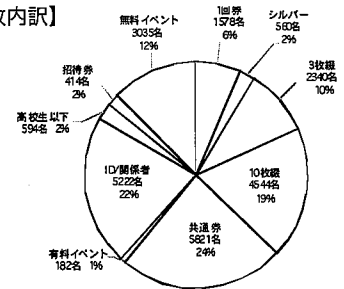
【売場別入場券売上内訳】



【券種別入場券売上内訳】



【券種別入場者数内訳】



⑧広報宣伝活動

プレイベントの開催

■映画祭の開催を広く知らしめるために、山形市中央公民館との共催でプレイベントを開催した。



山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 プレイベント  
 生誕100年 映画監督 市川崑が見つめた戦後日本

開催日：2015年8月8日【土】9日【日】

会場：山形市中央公民館6Fホール 入場者数：518人

【上映作品】『おとと』『東京オリンピック』『野火』『おはん』

【料金】前売500円、当日700円（全4作品込）／未就学児無料

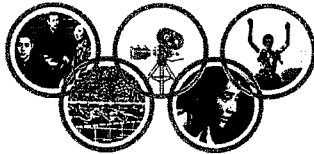
【主催】山形市教育委員会中央公民館、山形市優秀映画鑑賞推進事業実行委員会  
 文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター

【協賛】松竹ブロードキャスティング株式会社

【協力】株式会社オーエムシー

【後援】山形市芸術文化協会、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭  
 山形県興行生活衛生同業組合、山形市老人クラブ連合会

山形市 市川崑が見つめた戦後日本



2015.8.8-9

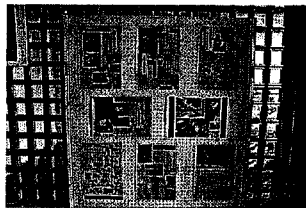
8.8 11:00-12:30 おとと 8.9 11:00-12:44 野火  
 12:30-13:18 東京オリンピック 13:30-15:27 おはん  
 山形市中央公民館ホール  
 前売 500円(4作品込み) 当日700円/未就学児は無料



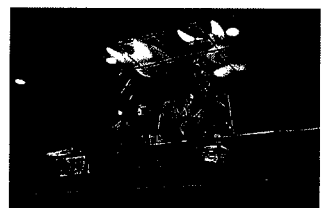
懐かし映画に皆さんご満悦



東京オリンピックポスターを飾って



当時から伝える新聞記事も読めます



もちろん35mmフィルム上映!

ポスター・スケジュールチラシの製作・設置



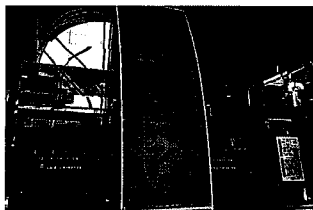
山形の街並みを美しいグラデーションで表現

■映画祭のメインポスターを製作した。デザインは東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科学生の中から当法人理事会および事務局にて選考を行い決定。このメインデザインはスケジュールちらし、公式カタログ、会場設置看板等に展開し、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015の共通イメージを生み出した。ポスターおよびチラシは市内中心商店街への掲示をはじめ、市内外の各種店舗、各施設などにも貼り出しを行った。その他、国内外の映画関係施設、教育機関等にも掲示依頼を送付した。

◇制作部数 **ポスター：3,000部** **チラシ：55,000部**  
**ポストカード：3,000部** **会場設置看板：11枚**

◇送付先 **国内：1,742件** **海外：319件**

主な送付先は、全国の映画館、映像系教育機関、美術館等文化施設など



お馴染のアズ前大型看板



期間中は各会場を飾った



どの会場でも目印となる



スケジュールチラシ



## 公式ウェブサイト及びメールマガジン等、インターネットを利用した広報活動

■公式ウェブサイトでは週一回の更新ペースで最新情報を掲載した。また、上映会企画については開催後に記録写真付き報告文を掲載し、不特定多数の方に山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 の開催と日常的活動をPRし、周知に努めた。また、メール配信システムによる『YIDFFニュース』を日本語版、英語版の2パターン制作し、月一回定期配信、海外の映画祭事情などの面白コラムと共にリアルタイムで映画祭情報を希望者に提供した。さらに、映画祭開催期間中は公式ブログ『YIDFF LIVE!』を開設し、USTREAM配信によるトークイベントの実況中継や、批評ワークショップの作品発表ほか、日々更新される最新情報を発信するなど観客の関心を高めた。その他、Twitter、FacebookなどのSNSによる双方向情報発信システムを使い、PRに努めた。

YIDFFオフィシャルサイト [URL : [www.yidff.jp](http://www.yidff.jp)]

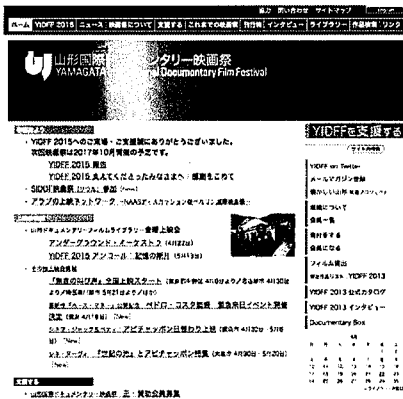
### 【アクセス解析】

期間：2015年4月から2016年3月まで（12ヶ月）

訪問者 **231,636人**（前回比 99.6%）

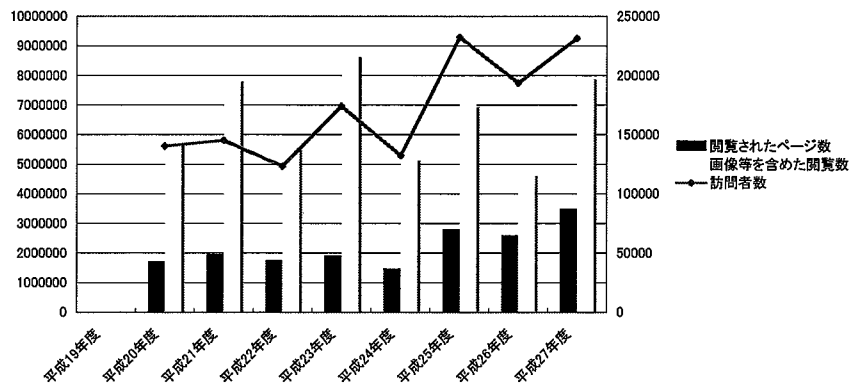
閲覧されたページ数 **3,492,888件**（前回比 124.6%）

画像等を含めた閲覧数 **7,955,964件**（前回比 113.3%）



過去の開催状況を網羅したデータベース

公式サイトアクセス解析



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
訪問者数	データ無	140,566	145,300	123,444	174,140	132,467	232,453
閲覧ページ数	データ無	1,708,680	1,955,122	1,747,624	1,917,144	1,464,839	2,804,398
画像を含む閲覧数	データ無	5,751,687	7,878,738	5,533,004	8,705,025	8,207,973	7,021,634

	平成26年度	平成27年度
訪問者数	198,669	231,636
閲覧ページ数	2,587,713	3,492,888
画像を含む閲覧数	4,684,397	7,955,964

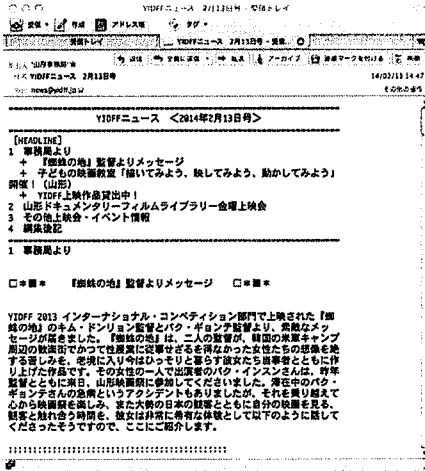
メールマガジン『YIDFFニュース』月1回発行（日本語版、英語版）

■多種多様な上映会情報に加え、人気コーナー「事務局より」では関係識者によるコラムなども掲載。その他トピック記事などを配信した。

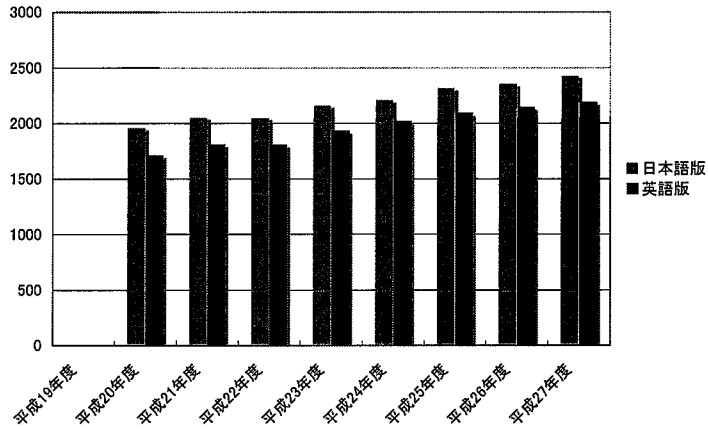
【実登録者数】 ※2014年3月現在

日本語版 **2,431人** (前回比 104.8%)

英語版 **2,190人** (前回比 104.8%)



メールマガジン登録者数



映画祭の最新情報がお手軽に受け取れる

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
日本語版	データ無	1,958	2,056	2,052	2,163	2,209	2,320
英語版	データ無	1,712	1,808	1,806	1,930	2,018	2,090

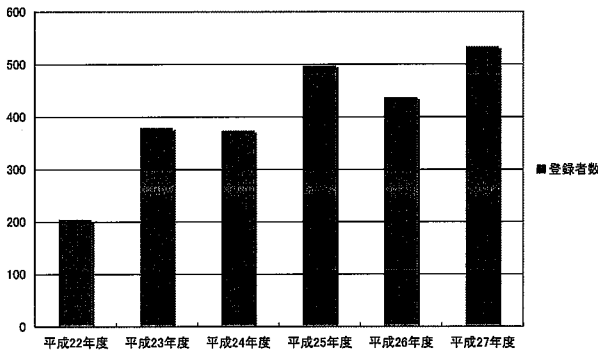
  

	平成26年度	平成27年度
日本語版	2,357	2,431
英語版	2,145	2,190

ボランティアメールマガジン『ボラマガ!』月1回発行

日本語版のみ **534人** (前回比 107.2%)

ボランティアメルマガ登録者数

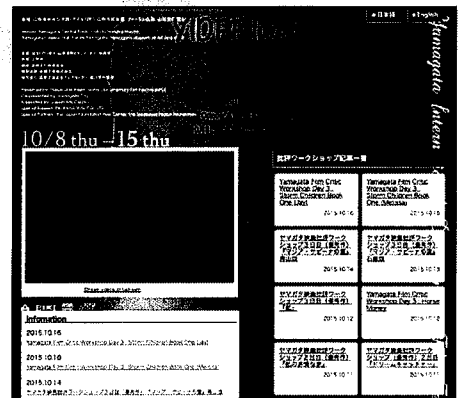


	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
登録者数	204	379	374	493	473	534

**YIDFF公式ブログ『YIDFF LIVE!』**

■公式サイトとは別に映画祭期間中の刻々と変化する情報を迅速に告知する目的により、広報班が主体となって発信する公式ブログを運用した。Q&A、ディスカッション、シンポジウム、ライブイベント、開閉会式の様子などをリアルタイム動画配信し、遠隔地の方にも映画祭の雰囲気を楽しんでいただけるよう工夫した。2013年より運用開始。

**動画ライブ配信視聴者数 7,557人 (前回比108%)**



動画配信で各種イベントを生中継

**YIDFF公式Twitter アカウント名 : yidff\_8989**

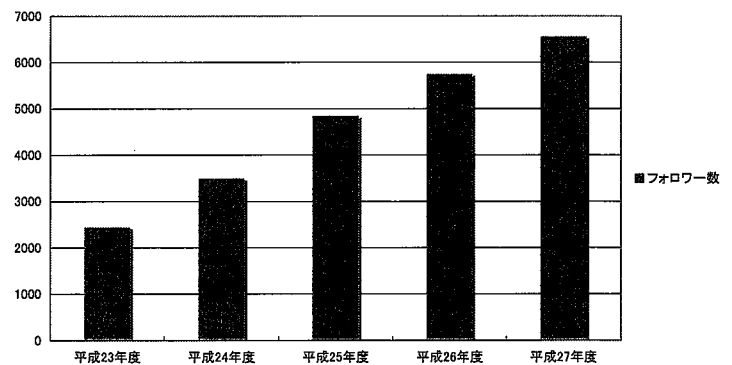
■リアルタイムな情報発信を可能にするミニブログ。上映情報の発信などで、当日の集客に結びつく成果を上げた。

**フォロワー数 6,580人 (前回比 135.8%)**



期間中、最も活躍した情報媒体となった

Twitterフォロワー数



	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
フォロワー数	2,452	3,502	4,847	5,751	6,580

**YIDFF公式Facebook URL : <https://www.facebook.com/yidff/>**

■映画祭公式のFacebookページを開設した。国内はもちろんのこと海外への情報発信に力を入れ、日本語英語両並記とした。また、画像、動画掲載に容易であることを活かし、インターナショナル・コンペティション作品の抜き焼き動画などを掲載し、映画祭開催までの気運を高めた。映画祭直前および期間中はボランティア有志によって運用された。

**いいね数 1,209人**



海外へ向けた発信がメイン

## 映画祭情報紙『ドキュやま!』の発行

■映画祭 2015 の情報やライブラリー作品上映情報などを掲載する映画祭情報紙『ドキュやま!』を制作した。山形市内を中心とした県内各所に配布。市民への情報告知ならびに映画祭の認知度アップを図ることを目的としている。今年度は「子ども映画教室」や主催イベント上映などの事後報告を、躍動感のある写真と文章で紹介し、日常的に行っている映像文化振興活動を広く知ってもらう工夫を行った。また、映画祭開催年らしく上映作品や特集プログラムなどをいち早く掲載し、本祭への気運を盛り上げた。市内の飲食店や書店などの協力により、各店舗に設置していることから、映画ファンのみならず、これまで映画祭に足を運んだことのない一般市民に対しても広く情報を発信できる媒体となっている。

判型：A4サイズ四つ折り 発行：年間5回（偶数月1日）

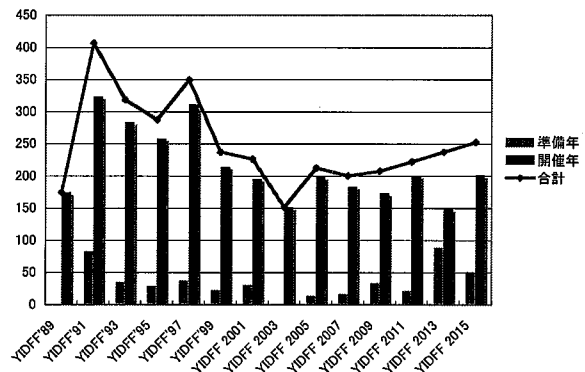
部数：各回7,000部配布（年間35,000部配布）



## パブリシティの設定

■国内外および山形県内のマスコミ各社に対して、映画祭開催に関する情報や注目トピックについて情報を発信した。主にプレス・リリースという形により、記事として取り上げてもらえるように営業活動を展開。また、それに合わせコンペティション作品タイトル発表などの重要事項については記者会見を行った。特に今回はブラジル大使館の協力により東京記者会見を大使館内で実施、ラテンアメリカ特集を中心として、マノエル・ド・オリヴェイラ作品上映など話題性のあるトピックを紹介した。これらの活動により、新聞・雑誌記事、テレビ・ウェブニュースとして露出を果たした。

記事露出件数



記事露出件数 **201件** (前回比135.8%)

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
準備年	データ無	83	35	29	33	23	31
開催年	174	323	283	253	311	214	195
合計	174	406	287	287	349	237	226
	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015
準備年	データ無	14	17	34	22	39	51
開催年	151	193	183	173	200	143	201
合計	151	212	200	207	222	237	252

## 【記者会見の開催】

- ◇ **インターナショナル・コンペティション作品発表記者会見**  
[6月24日 会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー]
- ◇ **メインビジュアルデザイン発表・東北芸術工科大学との合同記者会見**  
[7月23日 会場：東北芸術工科大学本館6F第一会議室]
- ◇ **山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 東京記者会見**  
[9月10日 会場：ブラジル大使館]
- ◇ **「やまがたと映画」特集詳細、山形交響楽協会との合同記者会見**  
[9月29日 会場：山形市市民活動支援センター高度情報会議室]
- ◇ **山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 受賞者記者会見**  
[10月14日 会場：山形市中央公民館（アズ七日町）4Fギャラリー]



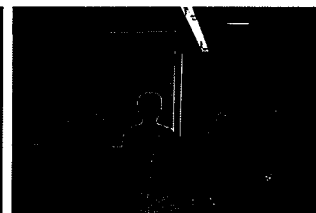
大注目のコンペ作品発表



芸工大学生もコメントを寄せた



今年の映画祭の見どころを紹介



会見後のフォトセッション

## テレビ・ラジオCMおよび新聞広告による告知

■テレビCM、ラジオCMを制作し、放送媒体を使って告知を行った。また、新聞広告による告知活動も行った。

### 【テレビCM】

**放送期間：平成27年10月3日～10月7日／放送形式：15秒スポット全日／放送回数：80回**

□テレビCM映像は東北芸術工科大学の岩井天志先生によるもので、研究協力を行っている「デジタルシネマ時代における小規模映画の上映形式の研究」の一環として制作された。またこの映像はコンペ作品の先付映像、映画館用予告としても使用され、広報宣伝に多方面で活用された。ストーンサークルを思わせる石が踊るアニメーションであり、アイヌの歌手の歌声が強いインパクトを与える映像だった。



石がグルグルと回って回って…



タイトル、ドーン！

### 【ラジオCM】

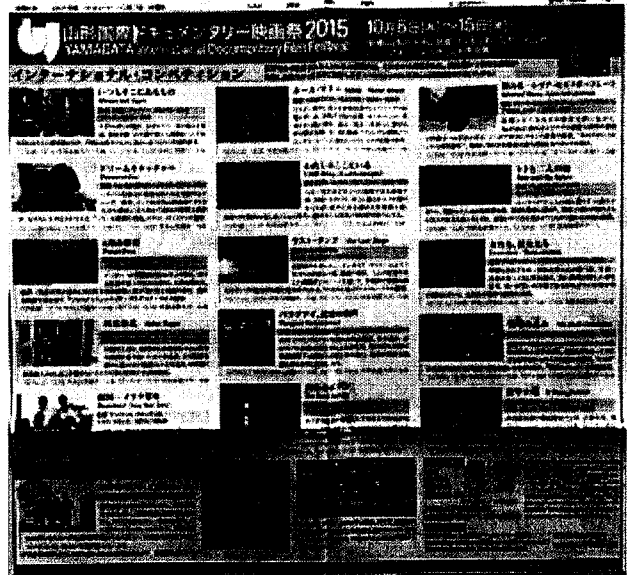
**放送期間：平成27年9月26日～10月7日／放送形式：20秒スポット／放送回数：131回**

□ラジオCMは映画祭ボランティアの地元男性に参加していただき、山形弁のやわらかいイントネーションで、映画祭の参加を呼びかけるという演出を行った。映画祭に来た観客から「ラジオ聞きました」との感想が複数上がっていた。

## 【新聞広告】

掲載媒体：山形新聞 掲載日：10月7日 掲載スペース：全面

□これまで3段モノクロにて広告掲載を行っていたが、仲介する山形アドバイザーからの提案により、今回初めて企業協賛広告と一体となったカラー全面広告を掲載した。新聞紙面全面1ページという大きな枠を活かし、山形県民に最も観ていただきたいプログラムである国際・コンペティション部門15作品と「やまがたと映画」プログラムの目玉である『無音の叫び声』を全面に押し出し、作品介绍と上映会場、上映時間を掲載した。映画祭イチ押しの作品群として、作品数が多くてどれを観たらよいかわからないという市民に対して、その鑑賞の手引きとなるものとなったのではないだろうか。その効果は非常に大きいと考える。次回も同様な形で掲載できるよう調整を進めていく。



1ページ全面広告のインパクト！

## プレスの映画祭参加について

プレス数：322人（うち海外55人） 【YIDFF 2013 プレス数：278人（うち海外37人）】

■国内外のマスコミ関係者や他映画祭、映画研究者らにプレス申請書を送付し、YIDFF 2015 を取材および研究対象としてもらう目的として、IDカードを発行した。映画祭において、このプレス参加者数が国内外の注目度をはかるバロメーターとなることは常識であるが、今回は前回比で全体数が115.8%、海外プレスの参加が148.6%となり、YIDFF 2013 に比してさらに世界規模での本映画祭に対する注目度の高さを如実にあらわす結果となった。特に海外からの参加が目立ち、人数は過去最多となっている。映画祭終了後の後追い記事により各国マスコミでの露出を果たした。また、国内においても開催期間中には映画祭の記事が連日各主要媒体の紙面を飾り、全国に向け、強く本映画祭をアピールした。



アズ4Fにプレスカウンターを設け



インタビュールームは連日満室状態



日本作品海外展開後押しイベント



名刺交換から商談のスタート

## J-Party の開催

■日本作品を海外へ紹介するという本映画祭の趣旨のもと、経済産業省管轄のJ-LOP+の補助を受け、日本作品の海外展開を促進する目的により、交流イベント「J-party」を開催した。主要な参加者は、「日本プログラム」上映監督、海外のマスコミ関係者、批評家、映画祭キュレーター、配給会社であり、お互いを引き合わせるにより、海外映画祭での上映のための交渉、海外配給のための商談など、本映画祭を切っ掛けとして日本作品が海外進出できるよう、積極的な交流を推進した。その結果、ドイツの日本映画祭「ニッポン・コネクション」など、幾つかの映画祭で「日本プログラム」の作品上映の具体的な交渉がスタートした。

## 映画祭グッズの製作

■映画祭グッズを製作した。映画祭とともに山形名産の日本酒を紹介し、山形のPRを行った。

### 【各種公式グッズ】

**No.1 トートバッグ (ボランティア手作りスタンプでカスタマイズ可能)**

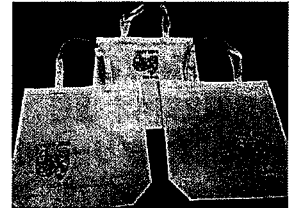
**No.2 映画祭特製ラベル付き数量限定・映画祭公式日本酒**

**No.3 アジア千波万波公式Tシャツ**

[山形県酒造協会 協賛]

#### 映画祭公式トートバッグについて

□公式カタログやその他グッズなどを持ち運びしやすいように、また映画祭参加の記念としてお土産にしてもらうことを目的にトートバッグを販売した。無地のバッグに、ボランティア有志と映画祭スタッフが手作りで作成した消しゴム判子を捺し、カスタマイズできる仕様となっている。消しゴム判子の絵柄については、山形の名産品や名所など、山形を全面的にPRする絵柄をデザイン（デザインもボランティア有志による）。自分の好きな絵柄を捺すことで、自分だけの山形バッグを作ることができるというアトラクション性も付加したものとなっている。ゲストには特製映画祭ロゴを押印したトートバッグを記念品として進呈した。



Yマークバージョン



手作りハンコでカスタマイズ

#### 映画祭公式日本酒について

□映画祭に参加した観客に「山形らしいお土産を」とのもてなしの気持ちを形にしたものとして特製の映画祭ラベルがついた公式日本酒を販売した。前は四合瓶だったため、お土産にしては重すぎるとの声があり、この点を改善して今回は350ml瓶での販売となった。ギフトラッピングの効果もあり、期間中に全商品完売するに至った。観客からも「いいお土産が出来た」と喜びの声が上がっていた。



寿ラ・フランス、男山、秀鳳

#### 公式Tシャツについて

□毎回恒例であり、大人気を博しているアジア千波万波Tシャツを今回も制作、販売した。色違い、サイズ違いで複数種類を制作。いずれも各会場で飛ぶように売れた。映画祭公式Tシャツはファンの間でも人気商品とされ、基本的には映画祭期間中にしか購入できないため、希少価値が高まっている。



青、黄、白の三種類を用意

## その他の広報宣伝活動

### ラジオ出演

■各ラジオ局の番組内に山形国際ドキュメンタリー映画祭の専門コーナーを設け、事務局員が出演する形で映画祭の紹介を行った。

#### 【ラジオ・モンスター】

- 毎月第1木曜日 午後1時 「Mon-brun モンブラン」内  
「ドキュメンタリーでドキュドキュ」コーナー出演 (約15~20分)  
内容：映画祭情報、各種上映会、イベント情報

#### 【Vigo-FM 78.8MHz】

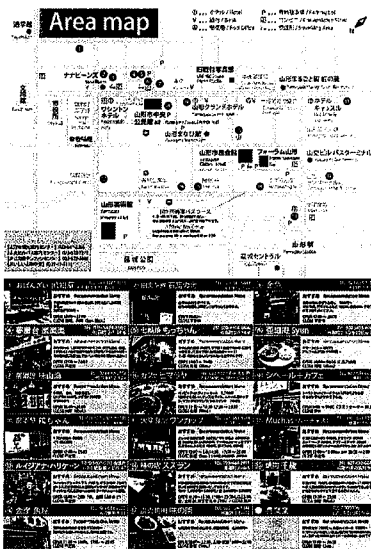
- 毎月第2第4木曜日 午前10時10分 「Vigorus-Mornin'」内  
「ドキュメンタリーの小窓」コーナー出演 (約10分)  
内容：映画祭情報、各種上映会、イベント情報

### 協力・協賛による広報活動

■各団体、企業の協力および協賛を得て、広報宣伝活動を行った。

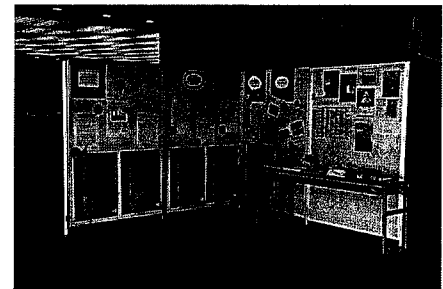
#### 【宣伝材料の製作協賛・掲示協力】

- 映画祭公式グルメマップ **【七日町周辺の各飲食店からの広告協賛】**
- 山形市役所駐車場ウィンドウディスプレイ設置 **【山形市によるスペース貸出協力】**
- 山形市役所ロビースペースでのパネル展示 **【山形市によるスペース貸出協力】**



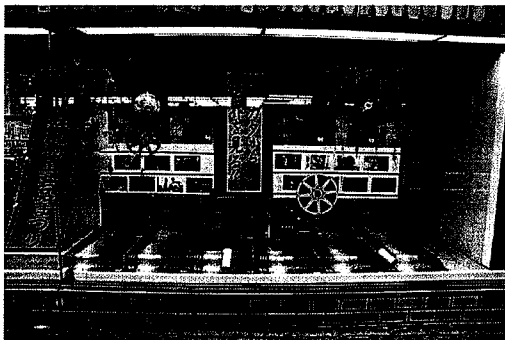
#### 【映画祭公式グルメマップ】

□七日町周辺の各飲食店からの協賛を得てグルメマップを作成し、映画祭ゲスト及び観客に、食事処、呑み処を積極的に紹介した。映画祭の観客が必ず手にするプログラムチラシ裏面をグルメマップにしたことで、非常に高い宣伝効果を発揮した。各協賛店からも「大変良かった」との声をいただいている。



#### 【市役所ロビーパネル展示】

□映画祭ボランティア、インターンシップ生の主導により、映画祭開催をPRする展示パネルを作成した。



#### 【市役所駐車場ウィンドウディスプレイ設置】

□映画祭ボランティア、インターンシップ生、職場体験中学生のアイデアを元にして、市役所駐車場東側にウィンドウディスプレイを設置した。国際的な映画の祭典を、市民目線に立ったアイデアで視覚化し、山形市役所を訪れる市民、七日町を歩く人々に映画祭開催をPRした。16mmフィルムや上映作品スチルを使って効果的な演出がなされていた。足を止めて眺める人も見受けられた。

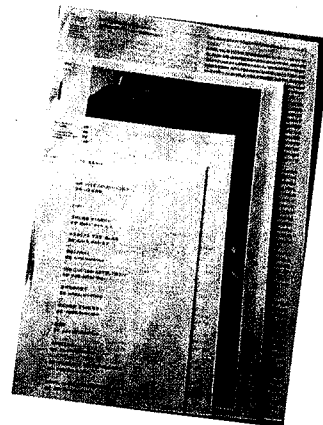
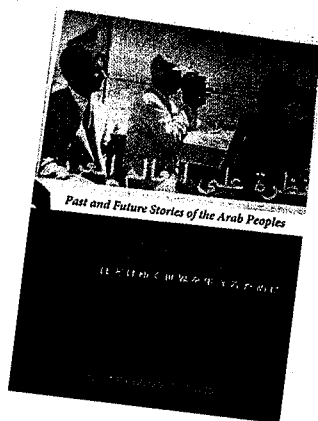
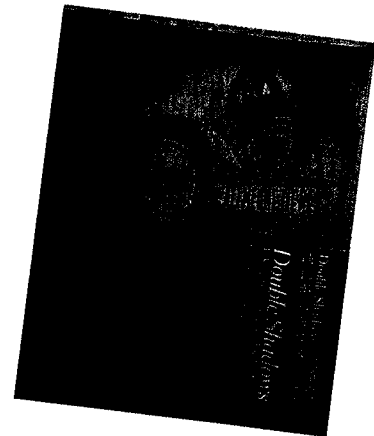
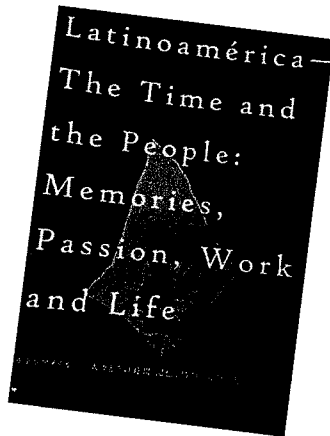


⑨各種出版物の製作と販売

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 関連の出版物を製作し、開催期間中より販売を行った。充実した内容の書籍を編纂し、普及することで映画祭への理解者を増やすことを目的としている。

【製作した書籍】

- 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 公式カタログ [定価：1,200円]
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 各特集プログラムカタログ
  - ◇ラテンアメリカ カタログ [定価：1,000円]
  - ◇Double Shadows カタログ [定価：1,000円]
  - ◇アラブを見る カタログ [定価：500円]
  - ◇ともにある Cinema with Us 2015 [定価：500円]
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 公式ガイドブック SPUTNIK [非売品・無料配布]



**書籍販売実績 1,382,800円 (前回比129.6%)**

【書籍別販売内訳】

『山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 公式カタログ』	1,200円×568冊	681,000円
『ラテンアメリカ—人々とその時間：記憶、情熱、労働と人生』	1,000円×214冊	214,000円
『Double Shadows／二重の影—映画が映画を映すとき』	1,000円×153冊	153,000円
『アラブをみる—ほどけゆく世界を生きるために』	500円×93冊	46,500円
『ともにある Cinema with Us 2015』	500円×59冊	29,500円

⑩映画祭ボランティアとの連携とリーダースタッフ体制作り

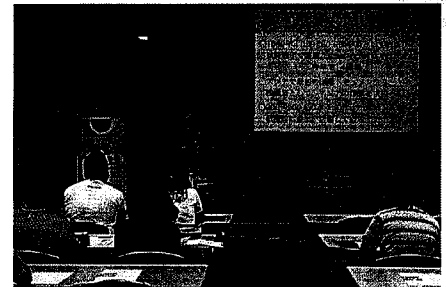
**参加ボランティア数 346人 (前回比 88.7%)**

**【リーダースタッフ体制：30人】**

■多くの市民ボランティアの参加を得て、ゲストおよび観客へのきめ細やかな対応を心がけながら運営体制の強化を図った。また募集のためにボランティア説明会を4回に渡って開催した。期間中は一般からボランティアのまとめ役であるリーダースタッフを雇用した。

ボランティア募集状況

- ◇第1回ボランティア説明会 [7月8日 (水) 15:00,19:00]
- ◇第2回ボランティア説明会 [7月26日 (日) 15:00,19:00]
- ◇第3回ボランティア説明会 [8月2日 (日) 15:00,19:00]  
[会場：山形市市民活動支援センター 高度情報会議室]
- ◇第1回東京ボランティア説明会 [7月28日 (火) 15:00,19:00]  
[会場：東京藝術学会 (東京都港区北青山) ]



ボランティア説明会の様子

ボランティア参加状況

【ボランティア参加者地域別内訳】

**山形市内からの参加者： 209人 (全体に占める割合：60.4%)**

- 山形市以外の県内参加者：34人 [内訳：村山市1人 東根市5人 高島町1人 天童市8人 朝日町1人 鶴岡市2人 米沢市6人 山辺町5人 寒河江市3人 南陽市1人 真室川町1人]
- 県外からの参加者：100人 [内訳：東京都50人 京都府13人 大阪府2人 宮城県5人 千葉県6人 神奈川県15人 埼玉県4人 福岡県1人 長野県1人 栃木県1人 宮崎県1人 福島県1人]
- 海外からの参加者：1人 [内訳：アメリカ1人]
- 出身地不明：2人

ボランティア活動状況

**会場係 参加者：96人**



**ゲストサポーター 参加者：62人**

**東京ゲストサポーター 参加者：8人**



**デイリー・ニュース 参加者：99人**



**香味庵クラブ** 参加者：29人



**司会進行** 参加者：6人



**広報** 参加者：5人



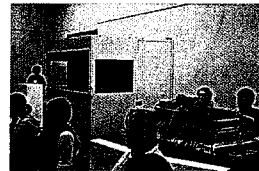
**市民賞運営** 参加者：11人



**その他・本部** 参加者：9人



**同時通訳機操作** 参加者：21人



### 来場者アンケート集計

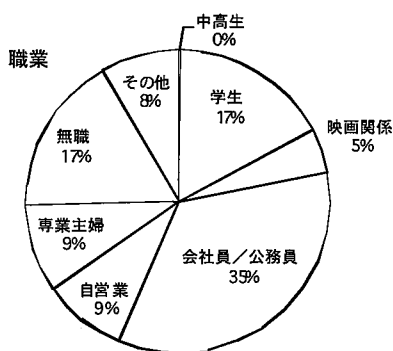
■映画祭開催期間中に各会場の来場者を対象としてアンケート調査を行った。各会場ともに混雑日、平常日に分け、中央公民館3回、市民会館大ホール2回、小ホール2回、フォーラム3・4・5ともに2回ずつ、山形美術館展示室1では2回、美術館展示室5では1回、合計16回にわたりサンプル抽出法を用いて調査を行った。

#### 【来場者アンケート調査の詳細】

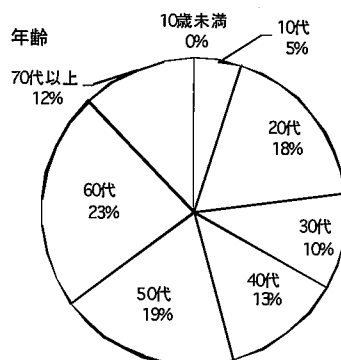
アンケート配布枚数：2,744枚    回収枚数：【日本語】541枚    【英語】25枚    合計：566枚  
回収率：21%

#### 【来場者アンケート結果】

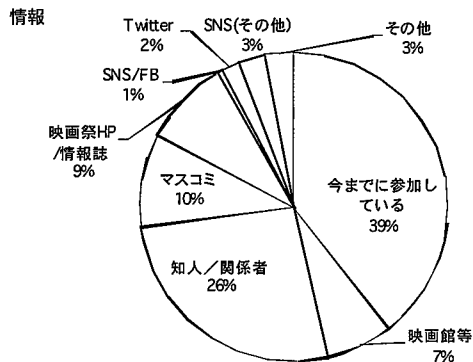
※アンケートの集計結果を円グラフにまとめました。全体に対する割合をパーセンテージで示してあります。



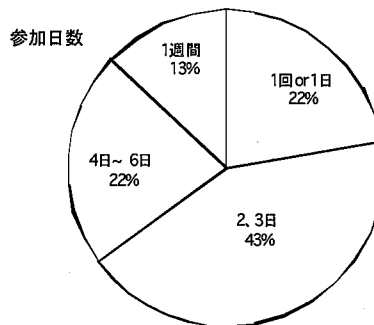
職業別では「会社員/公務員」が最も多く、日中働いている方でも三連休や仕事終わりを利用して、来場していることがわかる。また「学生」の割合が17%となっており、高齢者層を中心とする「無職」と同じ割合を示し、全体で2番目に多い客層であることがわかる。映画関係者は5%程度に留まっており、一部の関係者のみが参加しているとの声が多くの誤りであることがデータに現れている。



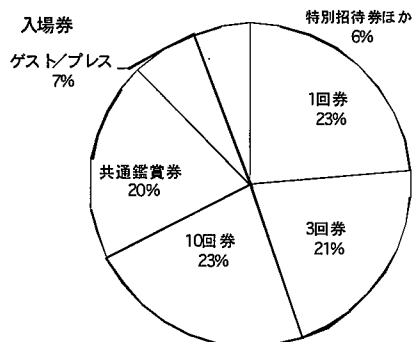
年齢別に見ると、60代が最も多く全体の23%を占め、次いで50代と20代がほぼ同数で並んでいる。また70代の参加も10%を越えており、20代から70代まで幅広い年齢層の参加が見られることがわかる。しかし、10代の参加を見ると、依然5%に留まっており（前回2013時は4%）、子ども映画教室等の低年齢層の参加を見込んだ企画立案をさらに促進していく必要があると言えるだろう。



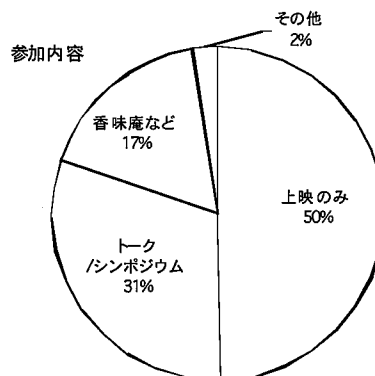
開催情報取得では、これまで同様リピーターが多いことがわかる。注目すべきは映画館等からの情報取得が7%（前回2013時は4%）となっていることで、今回全国のミニシアターに向けて隈無くプログラムチラシを送り、さらに枚数が少なくなったところには追加発送を行ったことによる効果が表れている。また、マスコミからの取得割合も増加していることから、効果的なパブリシティを展開できたと見ることができよう。



参加日数では「2、3日」が4割以上を占めていることがわかる。次いで「1回 or 1日」、「4日~6日」が同じ割合となっている。前回2013時に比べ「1回 or 1日」の割合が9%上昇しており、入場者数が過去最高となっていることからみても、初めての参加者、あるいはライトユーザーを多数獲得できたと言えるのではないだろうか。こうした参加者を次回へ繋げられるよう、観客を育てていくアクションを準備年から行っていく必要がある。

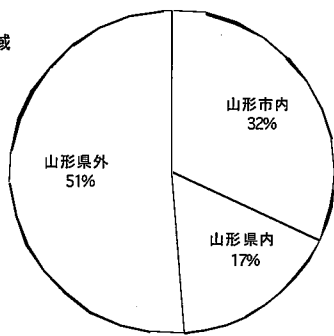


前回に比べ、今回は1回券、3回券と10回券の使用者が共通鑑賞券を上回った。これにより全券種がほぼ同じ割合となり、一部に偏りなく利用されていることがわかる。これまで共通鑑賞券が最も多く、リピーターなどを含むヘビーユーザーが多い印象であったが、先にあげた「参加日数」の部分でも明らかに、新規観客が増加した結果ではないだろうかと推察される。



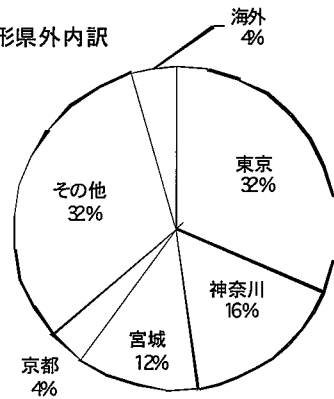
参加内容については、前回2013年に比べ、「香味庵など」の割合が減少し、「上映のみ」「トーク/シンポジウム」が増えるという結果となった。これは新規客層が増えたことに関係しているのではないかと推察される。

地域



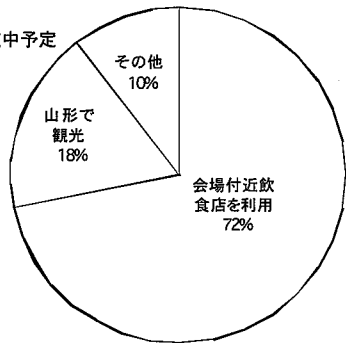
地域別では山形市内と山形県内を合わせた割合が49%であった。全体の半数を占めており、前回2013時に比べてさらに増加していることから、山形県民への映画祭の浸透度合いが増し、参加者が増えてきていることがわかる。国際映画祭としてみた場合、この割合は非常に良いバランスを保っていると言えるだろう。

山形県外内訳



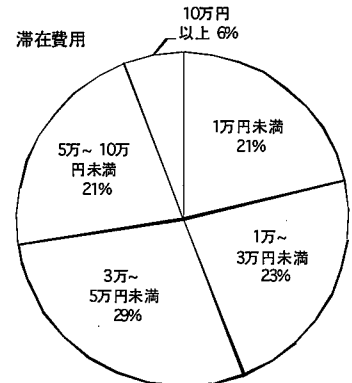
県外からの観客の内訳を見みると、首都圏からの参加が多いことは以前のものであるが、次いで宮城県からの参加も全体の1割を超えていることがわかる。隣県からの参加者にはまだまだ開拓の余地があるものと思われる。今後はさらに東北一円への宣伝普及活動に力を入れていく必要があると思われる。

滞在中予定



映画祭参加以外での山形滞在中の予定を見ると、「会場付近飲食店を利用」が全体の7割を占めている。次いで「山形で観光」が18%となっていることから、映画祭で来形した観客の多くは、映画鑑賞だけでなく、観光地としての山形も同様に堪能すべく滞在していることがわかる。前回に引き続き、今回もグルメマップを作成したが、今後はよりこの点にも意識的に他団体も巻き込みながら、山形の観光産業にも寄与するアクションを行っていく必要があるだろう。

滞在費用



滞在費用については、全日程にわたり映画祭に参加する観客もいるため、5万円以上の費用をかけている観客が全体の4分の1以上となっている。参加日数の割合と照らし合わせると、1週間以上にわたって滞在する者は13%に留まっていることから、多くの観客は宿泊費だけではなく、滞在時の食事、お土産などにお金を使っていると類推でき、一定の経済効果を上げているのではないかと考えられる。また、年々観客の増加によりホテルの予約が取れないとの声が多く上がっているため、山形市内中心部の宿泊定員を超える観客が映画祭のために来形していると思われる。

## 来場者アンケート自由筆記部分より一部抜粋

(問) 山形国際ドキュメンタリー映画祭へのご意見、ご要望(観光、ホテル、お土産情報など)、メッセージをお願いします。

### 【意見・要望】

#### ◆情報について

- ・ 全体的な情報をもっと早く欲しい。(60代無職、福岡)・事前の情報が少なかった。(60代自営業、東京)
- ・ 山形駅をはじめ、街でのドキュメンタリー映画祭の広報活動がほとんど見られない。(60代自営業、九州)
- ・ マスコミ様へもっともっと大きく取り上げて欲しい。(70代以上無職、山形市内)
- ・ 上映日程をわかりやすく掲示をお願いします。作品の紹介の末尾に日程を入れてくれるとか。本数が多いので、重ならないように調べるのは、スケジュール表から探さなくてはならないので、作品に日程が記載してあれば少し楽かなと。(繰り返し上映もあるので)(60代無職、山形市内)
- ・ プログラムの日程をカタログにも入れて欲しい。わかりにくかった。時間調整が難しく見たい映画も見損なったのでなんとかならないか。(60代映画関係者、大阪)
- ・ 会場もいくつか分かれており、上映本数も多いので公式プログラムを一読しただけではなかなかスケジュール作りが難しかった。初めてなので、何回も参加した人についてきたが。出来れば、スケジュール表・プログラムの発行を少しでも早くして欲しい。(60代映画関係者、四国・高知県)
- ・ タイムテーブルはPCからのダウンロードで見にくかったので、従来のように内容を一緒に配布してもらえるとありがたい(事前)。(60代無職、名古屋)
- ・ 日程表(スケジュール)をもっと早く、いろいろな場所においてほしい。(60代専業主婦、天童)
- ・ ホームページがダサく、魅かれない。上映作品一覧も、ユーザーはそこを見ながらスケジュールを作るので、ユーザー目線で作った方がいいのではないのでしょうか?(20代大学生、京都)
- ・ Ticketing info could be clearer (seven eleven coupons can be exchanged at any venue - this info could be clearer on the website). (50代映画関係者、YOKOHAMA) (チケット情報はもっとわかりやすく。ぴあ引換券についてなど)
- ・ 各会場の駐車場情報もwebにあげていただけるとありがたいです。ツイッターでの実況がとても参考になるので、次回もお願いします。(20代会社員/公務員、山形市内)
- ・ 各プログラムのカタログ(アラブ、ラテン、二重の影など)も必ず一日目には並ばせておくべきだ!いかにして、自分の時間割を作るかが重要なのかは運営側も承知のはずなのに…。加えて、HPにもせめて全作品の内容紹介は加えるべきだ!(20代会社員/公務員、寒河江)
- ・ 地元の人知らない人が多いと思います。もっとPRしてもいいのでは。(50代専業主婦、山形市)

#### ◆チケット

- ・ 前売券販売方法悪い→売る気を感じない。書店(八文字屋天童と本店、中央公民館、こまつ書店、宮脇書店az店)、公民館前売している表示なし。5、6ヶ所巡り唯一「前売券あります」の表示のあったシベールアリーナで購入。ポスター(の目立たない場所)に前売りの表示必要。宮脇書店にも依頼すべき。(40代会社員/公務員、置賜)
- ・ 5回券綴りのチケットを準備していただきたい。せつかくの機会なので、高校生にも数多くの映画に触れてもらいたいと思うので、何らかのアクションをお願いしたい。(60代会社員/公務員、山形市)
- ・ フリーパスの価格を値下げしてほしい。(30代会社員/公務員、東京都)

#### ◆交通手段・駐車場

- ・ 映画上映館の間のバス連絡(100円バス以外にも)が県外の人にもわかる簡単なものがあると嬉しいです。プログラム(内容は別として)A4位のサイズ(ex.1日ごととか)があると嬉しい。(60代専業主婦、新潟市)
- ・ 駐車場が少ない。渋滞していて困りました。映画がとてもよかったです!(20代会社員/公務員、山形市)
- ・ 駐車場の利用料の無料券を出して欲しい。(山形市民会館にはなかった。)(30代会社員/公務員、山形市)
- ・ 駐車場の割引等があると良い。七日町の駐車場料金が高すぎる。市役所駐車場だけでも割引して欲しい。県内・市内から観に来るのに大変である。お金がかかりすぎる。(50代専業主婦、山形市)
- ・ 今回レンタル自転車を利用しました。夜遅い移動になるので5時に返却というのはイミがない。有料で良いので4日間連続などで貸してほしい。歩けばいいのだ、というのは若者中心主義です。(50代会社員/公務員、大阪)
- ・ 会場の移動について、自転車が夕方まで使えるとありがたい。(50代会社員/公務員、大阪)
- ・ 山形周辺の温泉地、天童・上山・蔵王・東根に一律料金で安く泊まれるバックを作り、シャトルバスで送迎するなどやってみてはどうですか。(50代会社員/公務員、山形市)

#### ◆宿泊

- ・ 宿泊案内は以前に比べ、休業・廃業したともあり少なくなって来ている。以前の宿も団体が使用したりで満杯になって来ている。映画祭に協力していないビジネスホテルの電話ぐらいいは載せて欲しい。宿がとれない、泊まれないという状況がここ数年続いている。(60代その他、関西)
- ・ ホテルが年々とりづらくなっています…(50代会社員/公務員、東京)
- ・ ウィークリーマンション情報をのせてほしいです。(40代自営業、岐阜)
- ・ ホテルの情報をもっとあると嬉しいです。(20代学生、東京都)
- ・ 素泊まりで安く泊まりたいので、そういう施設を増やして欲しい。(50代会社員/公務員、東京)
- ・ 宿泊先がざつたいに不足している。今までこのイベントを知らなかった。(40代会社員/公務員、都内)

#### ◆会場

- ・ アズの会場整理をもっと早めに行った方が良かったと思います。客が自分たちで並び始め先に来ていた方達が後ろに並ぶことになってしまっていました。(60代会社員/公務員、札幌)
- ・ 入場の際混んでいて階段に並ぶ際、杖をついている方等お年寄りの方に心遣いがあった方がいいな—と思いました。(40代会社員/公務員、山形市)
- ・ 観客の中に杖をついている高齢の方が少ない数で見受けられました。段差のある所で空いている席を探したり、入場前の長い列を立って待っていたり、時には列が長い階段にいったん並んで、上がったたり下りたりをしなければならぬ人もいて大変そうでした。会場にそうした人々のための席をあらかじめ用意するか、列に並ばなくてもいいようなケアが出来たらいいと思いました。ご検討下さい。(60代大学教員、東根)
- ・ せっかく見に行ったのに部屋が満員になったため締め出されました。今後そのことに関して対処をお願いします。(10代大学生、山形市)
- ・ フォーラム内外の連携、トランシーバー使うべき。入場口と列が離れ過ぎ。フォーラム館内誘導、先に入った人は奥から詰めて座るよう要請→誤ったアナウンス。自由席は先に並んだ人が好きな席を選ぶべき。実際ほとんどがそうなった。従った人は端の席になった。満席が予想されるときは、入場を早めて会場整理に人数を増やすべき。会場が合わないキャパ。(40代会社員/公務員、置賜)
- ・ 1回券~10回券を利用している観客が、入場してからトイレ等でいったん会場から出て再入場する際の整理ができてない。一考を要す。いちいち顔を記憶するのは不可能なので、スタンプ・チェック等した方がよい。(50代会社員/公務員、東京)
- ・ パイプ椅子が座りにくい。疲れる。天童や東根でも上映して欲しい。年寄りが観たい映画なのに場所と椅子がひどすぎる。親戚のおじいさんもつれてこれなかった。この場所でこの値段は高すぎる。映画館だけの上映が良いのでは？(40代会社員/公務員、東根市)

#### ◆上映

- ・ コンペ参加作品を中心に2回上映されるが、日だけでなく時間帯も午前・午後に振り分けてもらいたい。(60代無職、山形市)
- ・ 上映を1作品しかないやつも2回上映して欲しい。(10代大学生、京都)
- ・ 上映後質問コーナーの時間が短かすぎると思えます。(50代会社員/公務員、東京)
- ・ 今まで21:00くらいからも映画が見られたと思いますが、今回はコンペの最終を見終わるともう見るものがなく残念です。東京からわざわざ来ますので1本でも多く見たいのです。終電の心配もありませんし、多くの映画を見られるよう少しでも機会が多いと嬉しいです。よろしくお願いします。(50代自営業、東京)
- ・ パネルディスカッション等の司会のレベルがマチマチで退屈すぎるものもある。ある程度、場をしきることのできる司会者を立てるべきではないか。カワイイイラストのお店情報、とてもよかったが実際にはmapがいい加減で使えず。また協賛なのかA2サイズのプログラムのお店も期間中closeが多いのは使えない。質疑応答のすすめ方、Q→Aで終わり、ではなく、Q→A→Qで質問者の主旨にあったAnswerが得られたのかまで、あった方がよいと思う。(県外)
- ・ 森達也の『ドキュメンタリーは嘘をつく』を楽しみにしていたのに、満員で見れませんでした。とてもとても残念です。大きな会場で行って欲しかったです。毎回楽しみにしていますので、これからも頑張ってください。(40代会社員/公務員、札幌)
- ・ 映画祭に参加するのは今回が初めてなのですが、プログラムが充実していて、とても楽しいです。要望としては、フォーラム、中央公民館ホール以外の会場の席が、長期間観賞するには居心地が悪すぎる。パイプいす以外にして欲しい。『コーナーズ』『天津の一日』『貧しさは吸いとる者たち』のトークショーはとても良かったです。映画への理解が深まり楽しかった。(20代学生、神奈川県)
- ・ 映画祭に来て良かったと思うのは「この一本」にめぐり会えた日々です。僕にとっての今年の「大賞」は『銀の水』。シリアのこの映像を僕自身も今の世界も必要としている。『青年★趙』も中国の人たちが直面する問題を等身大で教えてくれた。『河北台北』はたくましく元気をくれた。(60代Y.T、横浜市)

- ・ 11日『母たち彼女たち』のアフタートークの通訳の方がとても気に入りしました。ニュアンスの訳しかた実直でなかった時もあり、また母国語でなくともゲストである監督が戸惑っているように見え、残念なアフタートークでした。『無音の叫び声』のアフタートークは他の通訳の方も問題なくスムーズでした。ただ、年配の方のアフタートークは椅子に座った状態で落ち着いた中の方が良かったと思う。舞台上でのアフタートークでは座った方が良い。(30代自営業、関東)
- ・ 通訳の質を上げたほうがいい。(30代会社員/公務員、神奈川)
- ・ 通訳の方のマイク音が耳障りで印象が悪いです。改善して欲しい。(60代自営業、山形市)
- ・ 日本語で喋るところも日本語の字幕があるとより良いと思う。美術館など席の段差がない場合は字幕を横に付けて欲しい。(20代学生、東京)
- ・ Everything is very Good, except the stage setting at the small lecture room of Yamagata's citizens' Hall, which is difficult to see the English subtitles. (50代会社員/公務員、Taiwan) (市民会館小ホールの英語字幕がみづらい)
- ・ 近くにいる方の字幕音声キットの音声もれ上映中迷惑した。レストラン、お土産情報等は役立った。(50代会社員/公務員、大阪)

#### ◆香味庵・飲食店・お土産

- ・ 香味庵は大混雑で、同様の交流ができる飲食スペースが他にもあるといいかもしれません。(40代自営業、東京)
- ・ 毎回香味庵に人が集中し過ぎて何もできない。全体にスケジュールが夜に寄り過ぎている。トークまでも含めると24時を過ぎてしまう場合、飲み屋にも行けない。当日帰る人のことも考えると、もっと朝寄り(9時台からの上映など)をしてほしい。土日は閉店してる飲食店が多いので、案内を載せて欲しい。(30代会社員/公務員、神奈川県)
- ・ 山形美術館に食べる所がなく大変困る。弁当など販売してもらえないだろうか。(40代会社員/公務員、大阪)
- ・ 映画祭のお酒はお土産としてありがたい。良いものをありがとうございます。駅前の居酒屋さん沢山あって楽しいけれど地元のお酒を置いてない所があって、少し淋しかったです。チェーン店でも一種くらい特別に置いてくれたら良いのにと願います。特に遅くまでやっている駅前の看板的な立地にある居酒屋さんの場合。(30代会社員/公務員、岡山)
- ・ もっとサロンスペースを増やして欲しい。お土産もわかりやすく示して欲しい。(30代映画関係者、東京)
- ・ 二年に一度訪れますが、お土産の情報の中々うまく得ることが出来ず困ることが多々あります。そういった情報を得ることが出来る場所など教えていただけると幸いです。(20代会社員/公務員、東京)

#### ◆その他

- ・ 市・県の協力をもっとしてほしい、と望みます。(50代会社員/公務員、山形市)
- ・ コンペティション部門の参加選考基準の不透明さは大分改善されたが、時折首をかしげたくなる選出があったりネポティズム(コネ)を疑わせる水準の低い作品が選ばれているケースを見かける。何故これを上映するのか納得できる説明に努めて欲しい。(50代会社員/公務員、横浜)
- ・ 最近国際という割に出品地域に著しい片寄りが見られる気がする。今回も？アフリカからのIC作品がなかったように思う。その一方、シリア、レバノン、パレスチナ、ラテンアメリカは目立っていたし、ロシア、豪州、北米も少ない。理由が知りたい。意図的なのか？全世界から〇〇作品の応募というのでもいいが、地域別応募数も公表すべきでは？(特定の地域の応募作のレベルが低いのか？) テレビで見られないような社会問題にもっと真正面から取り組んだ作品の比率を増やして欲しい。(目をつけられるから無理?) 家族もの多すぎ!(50代会社員/公務員、神奈川)
- ・ 11日10:30~市民会館大ホールで上映された『6月の取引』で、市民賞の投票用紙が足りませんでした。投票箱を持っている男性にそう言うと「今言ってくれたらここに印を入れます」と言われました。これは正しいやり方でしょうか。お断りしましたが。(50代専業主婦、神奈川)
- ・ コンサートは東京へ帰れる時間に終わって欲しい。ホールで軽食を販売して欲しい。プログラムをもっと詳しく(上映作品で全く載っていないものも多い。JF、YF)。前売券が安いのが嬉しい。(50代会社員/公務員、横浜)
- ・ 映画祭の期間に休日が多く入るように工夫して欲しいです。例えば、土日で始まり土日で終わるような。今回も『風の波紋』など見たいけれど見れない作品があつて残念でした(土日にあつても見れなかった『テラキスの帰郷』もあるので上映スケジュールが原因の全てではないのですが)。次回の開催、楽しみにしています。ありがとうございました。(30代会社員/公務員、山形市)



- ・ 今まで全て参加しました。皆様の活躍には敬服します。ボランティアのあたたかい接客には感動しています。提案しますが、香味庵はいつも満員で、身動きがとれません。もう一か所用意されてはいかがでしょうか。もう一つ提案があります。格差社会で若い人も含めて貧困が大きくなっています。とりわけ、若い人にはドキュメンタリー映画を見て欲しいと思います。その為には滞在費が重荷です。災害の時の避難所の様な、寝袋でゴロ寝出来るスペースを確保出来ないでしょうか？そうすればとりわけ、学生などは一週間滞在できると思います。（60代自営業、新潟市）
- ・ 自転車を利用したときに、各会場でどこに止めてよいのかわからず戸惑いました。掲示とかパンフレットに載せるとか案内があれば安心できると思います（できるだけ無料で止められると、より気軽に来れると思います）。閉会式で、山形国際ドキュメンタリー映画祭はアジア初のドキュメンタリー映画祭であると聞きました。これはすごく素晴らしいことです。しかし、山形県民や市民は、この映画祭に興味がないように感じることがすごく悲しいです。認知されていないというか。もっとこの映画祭に県民や市民にも興味を持ってほしいですが具体的な方法はわかりませんが、この映画祭が末長く続くよう、来年もまた参加したいです。炊き出しがおいしかったです。世界中の様々な現実を目の当たりにできると、知らなかったことにおどろき、目の前の世界が広がります。山形でドキュメンタリー映画祭が開催されたことにとっても感謝します。スタッフの皆さん、ありがとうございます！（20代無職、米沢市）

### 【感想】

- ・ 今回は連休もあり、クラフト展など山形市のイベントなど盛り上がりとても楽しめた。お祭りの感じがあってとても良かったと思う。県外の人でも楽しめたのではないだろうか。市民も県外の人でも皆楽しめるイベントになるようこれからも願います。（50代自営業、山形市）
- ・ May this festival live forever! 市民として心より応援します。（70代以上無職、山形市）
- ・ 山形県最高の宝と思っています。私は初回から参加していますが、普通の山形市民の参加がまだまだ少ないのが残念です。「ドキュメンタリー映画」に二の足を踏んでる市民向けに「おすすめ映画」コラムなどは？もっともっとお祭りを盛り上げたいものです。（60代無職、山形市）
- ・ 毎回とても楽しみにしています。年を追うごとに映画祭が盛り上がりを感じる。この期間は地元がいつもと違う雰囲気になるのが楽しいです。駅前大通りや駅周辺のお店を映画祭がコラボしたらもっと楽しそう。運営頑張ってください。今後もずっと参加します。（20代パート、山形市）
- ・ 今後とも市民の手による映画祭として続けて欲しい。一市民として参加したい。この映画祭は世界中から人々が山形に集う素晴らしいイベントであると思う。子ども達の参加についても一考いただきたい。（60代会社員/公務員、山形市）
- ・ 市民へ、広報誌（町内会回覧）などで周知、広く宣伝する方がよいと思います。市民で迎えるBig Eventとして。（60代専業主婦、山形市）
- ・ 四中生の参加はとてもよいことだと思う。このようなチャンスを他の学校も利用すればよいと思う。山形にいて世界を体験できる機会なのだから。（60代自営業、山形市）
- ・ 2013年から見るようになったが山形市全体での取り組みがもっとあってもよいと思う。高校生の参加など。商工会などは協力しているのだろうか…？少し街の「ウェルカム」の対応がさびしい気もする。（60代自営業、山形市）
- ・ 『ラストタンゴ』も長蛇の列でかなり大変でした。途中横から入ってくる人もいて、スタッフがもっとしっかりしてないとダメだなと思いましたが、市民会館ではスタッフの方が大きい声で整理してくれたので気持ちよく『無音の叫び声』を観ることができました。（60代専業主婦、山形市）
- ・ 東北のこの山形でこのような素晴らしい映画祭が続いている事に、とてもとても感謝です。次世代へのバトンを素晴らしい形で渡したいですね！！食は命、日本の食料自給を深く心配します。（60代年金生活者、山形市）
- ・ 山形国際ドキュメンタリー映画祭には開催年にほぼ毎回見に来ている。年々内容が充実してきているように思う。上映されるドキュメンタリーもそうであるが、それ以外のパンフレットや町内のイベントも充実しわかりやすくなっているようだ。企画されているみなさん本当にありがとうございます。次回も楽しみです。（40代会社員/公務員、山形市）
- ・ もっともっと山形市民参加型の映画祭に！（40代会社員/公務員、山形市）
- ・ 『きらめく拍手の音』を観ました。監督のトークで通訳をした方がよかった。通訳が的確で感じも良かった。（40代会社員/公務員、山形市）
- ・ いつも楽しませていただいています。多くの人が納得いく方法を、と考えておられると思いますが、フォーラムの外に並んで待つのはなかなか厳しいです。あと、帽子をかぶっている人にとるよう上映の始めに言って下さい。スタッフの皆さんご苦労様です。（50代会社員/公務員、山形市）
- ・ 監督の温かさが伝わってきてすごく良かったです。（20代大学院等、山形市）

- ・今年も秀作揃い。かつ運営も年々スムーズ、親切になっているように感じます。一時期減っていたアメリカ作品も増え、南米特集もすばらしかった。ただマジメな作品が多過ぎるので、遅い時間にマジメ作品（例、『テレクラキャノンボール2014』のような）を一定数上映いただけると映画祭としての厚みも増すかと。今回もすばらしいです。ありがとうございます！！（40代自営業、山形市）
- ・今回初めて足を運びましたが、毎年国際ドキュメンタリー映画祭が山形で開催されることは、素晴らしいことだと思います。ぜひ続けて下さい。（30代会社員/公務員、山形市内）
- ・地元で国際映画祭が開催されうれしく思っております。（20代会社員/公務員、山形市内）
- ・今回10/10(土)の七日町大通りのイベントと重なり、映画祭でもイベントに参加できるゆとりができて、街が楽しそうだった。遊学館の企画「映像は語る」は映画祭の歴史もふりかえられてよかった。10/11(日)の午前中の作品『陳才根の隣人たち』を観た。（60代専業主婦、山形市）
- ・年々おもしろくない。以前はもっともっと良い作品が多かった。（70代以上その他、山形市内）
- ・朝ヨガが最高でした！！野外も室内も朝日を浴びながらのヨガ素晴らしい。講師の先生も素敵でした。もっと参加して欲しい。ヨガが9:30に終わらなかった事に関して→公演の時間もあるし（長く並ぶ？というギリギリ間に合わない経験もしました）ので終わる時間については余裕をもって欲しい。（40代会社員/公務員、鶴岡市）
- ・映画はたくさん観ているのに、ドキュメンタリー映画祭はタイミングが合わず今回初めての観賞となりました。予想以上におもしろく楽しめました。次回以降も期待してます。特にIC作品の質の高いのに驚きます。さすが！ということなのでしょうね。（40代会社員/公務員、村山市）
- ・毎年少ない日数ですが参加しております。作家のスピーチは毎回たのしみです。（50代、南陽市）
- ・山形市は二回目の訪問ですが、今回は映画祭のために来ました。散歩してみたが、良い町です。次の映画祭、もっと長く滞在してみたい。（60代会社員/公務員、鶴岡市）
- ・素晴らしい祭が山形であるって、とても嬉しい事です。自然いっぱいの山形で文化の秋、芸術の秋を楽しんでもらいたいです。関係者の方々、頑張ってください！（50代、天童市）
- ・『城壁と人々』を見ました。元気な女性達を見てとても楽しい気分になりました。（50代、酒田市）
- ・山形に暮らす者として、ドキュメンタリー映画祭をきっかけ（目的）として山形に県外・国外から人が来ることに嬉しく思う。（20代会社員/公務員、山形県内）
- ・戦争についての聴き取りをまとめられた映像を見たいと思い来場しました。インタビューの対象者を全県にも広げていただき、継続して映像を残していただければ、たいへんうれしいです。ありがとうございました。（50代会社員/公務員、置賜）
- ・'93に初参加以来欠かさず、一般人にも垣根の低い映画祭にはまっています。（ex.監督が隣りに座っている）山形の町の良い所はいっぱいありますが、一番は人の温かさ！すばらしい催しありがとうございます。また再来年来ます。前回1人（今回も来ました）今回も1人（次回も来るって）新しい人を連れて来ました。（60代無職、大阪市）
- ・独自の映画祭で素晴らしい取り組みだと感心しております。（40代会社員/公務員、埼玉県）
- ・毎回楽しみにしております。関東でも何かオフ会を企画してもらえるとありがたいです。（40代会社員/公務員、熊谷市）
- ・質の高い映画祭だと思います。（70代以上無職、東京）
- ・4回目の参加です。次回も参加したいと思います。参加するたびに地域の企業等の協賛が増えているのがすばらしいと思います。（20代会社員/公務員、東京）
- ・2回目の訪問ですが、若い人が多く街角などで観た映画について語り合う姿が多数見受けられた。すばらしいと思いました。（50代無職、新潟）
- ・運営が素晴らしい。感動した。2年ごとの開催なので、うらの年も何か工夫をしてイベントとまではいなくても、何か企画して欲しい。今回の参加で山形が本当に好きになった。（60代会社役員、大阪）
- ・毎回楽しみに参加させていただいております。外国からの作品はとても充実しているように思います。国内作品をもっと見たい、頑張ってくださいと感じましたが、その方向の取り組みとして若手育成に取り組まれているのは素晴らしく期待しております。これからは運営は大変かと思いますが、よろしく願います。今回もありがとうございました。（40代教員、栃木県）
- ・スタッフの皆さんの案内もスムーズで素晴らしいと思います。ティーチインでの通訳も他映画祭に比べて良い方だと思うので、今後もそういった見えにくい部分に気づきがある映画祭を続け頂けたら嬉しいです（もちろん映画が見られるだけでとてもありがたいのですが）。（40代会社員/公務員、兵庫県）
- ・今回もとても充実したプログラムで素晴らしい映画祭でした。（30代会社員/公務員、富山）
- ・第3回から夫婦で毎回参加している。作品はもとよりプログラム構成、香味庵での交流、山形市民のアットホームな対応に感激している。（70代無職、兵庫県）
- ・プラス温泉があれば何でも。一週間いらればサッカーも見たいです。定年後実現します。（40代自営業、神奈川県）
- ・今回は特別感激する（した）ものが少なかったように思う。（60代パート、千葉）
- ・今回で5回目の参加。初めて平日のみなのであまり観れず残念。インパクトのあるテーマを扱う作品が少ないように感じる。（20代会社員/公務員、東京）
- ・継続していただけたら。（60代無職、北海道）

- ・フォーラム、市民会館の近くに喫茶店がたくさんあるといいのに。これから山形に二年に一度必ず来て、映画三昧の幸せを味わいたいと思います。スタッフ、ボランティアの皆様、素晴らしい映画祭のために本当にありがとうございます。幸せな三日間でした。(50代大学教員(保育学)、東京都大田区)
- ・今回で4回目くらいの参加です。上映後の監督のトークセッションなどで理解を一步深めることができるのが魅力です。ロビーなどで山形特産の果物のジュースなど売れば結構人気が出るような気がします(県外人だからそう思うのかもしれませんが)。(40代会社員/公務員、新潟市)
- ・一日だけの参加でしたが、いい時間の中に身を置く事が出来ました。(70代以上僧侶、愛知県)
- ・数年前に映画祭の事を知り、以来の念願叶い初参加…!羽田監督の貴重なお話が聞けた事、嬉しく思いました!!(40代会社員/公務員、東京)
- ・山形交響楽団のスペシャルコンサートもききたかったのですが、みたい映画と重なり大変残念でした。次回は重なりませんように。(30代会社員/公務員、岡山)
- ・東京の映画祭やその他のイベントと較べて、ほのぼのとした雰囲気心地よいイベントと感じます。スタッフの対応もちょっと素人っぽいですが、まったく不快感はありません。山形の街も気に入りました。(60代専業主婦、東京)
- ・今回初めて映画祭に来てみてとても感動しました。山形の文化として今後も頑張っって欲しいと思いました。来年も来ます!(40代自営業、仙台)
- ・開催を昔からとても楽しみにしています。末永く続けて下さい。終了後のディスカッションも楽しみです。ボランティアの方も親切ですね。(50代会社員/公務員、宮城県)
- ・毎回たのしみにしています!香味庵がいっぱいなので、もう一つ同じような場があれば嬉しいです。飲食店のガイドを映画プログラムと一緒にいただけるとありがたいです。(30代学生、東京都)
- ・地方産業の振興とも深く結びついており、国際色と外国からの来日者にもよくケアがいき届いたとてもすばらしい映画祭だと思います。ぜひいつか出展側として参加できるようがんばりたいと思います。(30代映画関係者、東京)

### 映画祭上映作品の一般公開

■インターナショナル・コンペティションにて日本初公開となった作品について、映画祭開催後に6作品が一般公開のために配給会社管理となった。この内、『ラスト・タンゴ』、『真珠のボタン』、『ホース・マネー』については映画祭開催前に既に配給がついていたものであるが、『銀の水—シリア・セルフポートレート』、『トトと二人の姉』、『わたしはここにいる』については映画祭の上映を切っ掛けとして日本配給がついたものである。『ラスト・タンゴ』以外は「山形国際ドキュメンタリー映画祭上映作品」として一般公開の広報宣伝が成されていくと考えられ、全国に向けて当映画祭の名前が発信されるものとなるであろう。

#### 【一般公開作品】

##### 『ホース・マネー』

配給：シネマトリックス 2016年6月公開予定

##### 『シリア・モナムール(映画祭公開時：『銀の水—シリア・セルフポートレート』)』

配給：サニー&テルザ 2016年5月下旬公開予定

##### 『トトと二人の姉』

配給：交渉中 公開日未定

##### 『わたしはここにいる』

配給：交渉中 公開日未定

##### 『真珠のボタン』

配給：アップリンク 2015年10月公開

##### 『ラスト・タンゴ』

配給：アルバトロスフィルム 2016年夏公開予定

# [5] 上映会・鑑賞会推進

## (1) 市民・県民の様々な年代層に対する、所蔵作品を中心とした鑑賞会の創出

### 金曜上映会

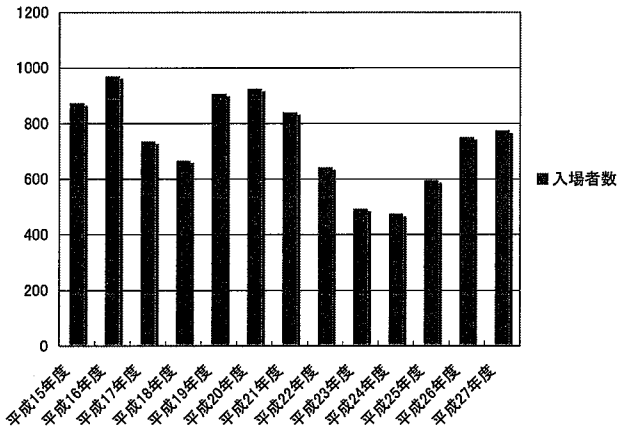
■山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを会場とし、映画祭所蔵作品を始め、一般的には鑑賞機会が少ない作品の上映を行い、市民県民に対して貴重な映像に親しむ機会を設けた。また、金曜上映会特別版としてゲストを招いたトーク付き上映なども行った。平成25年度より会員登録を無料化。

□月2回金曜 計21回開催（映画祭開催のため9月は1回、10月は休映）

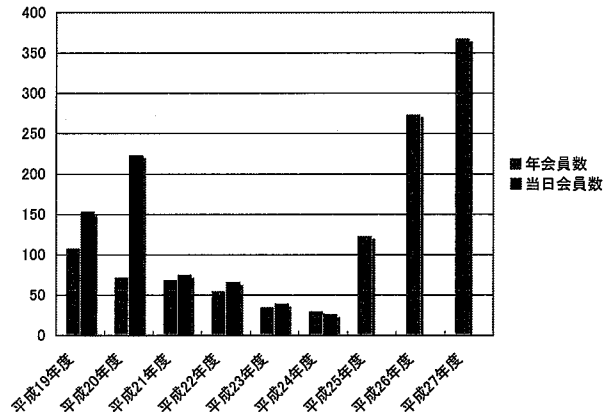
**年間入場者数 775人**（前年比 103.2%）

**会員数 368人**（前年比 134.3%）

金曜上映会



金曜上映会会員数



	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
入場者数	874	971	736	668	903	925	840
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
入場者数	643	493	475	596	751	775	

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
会員数	103	72	69	55	35	30	123
当日会員数	153	223	75	66	39	26	当日会員廃止
	平成26年度	平成27年度					
会員数	274	368					
当日会員数	当日会員廃止	当日会員廃止					

開催日	タイトル・上映作品	入場者数
4月10日	〈YIDFF 2013 アンコール12：リヴィジョン〉『リヴィジョン/検証』	26人
4月24日	〈YIDFF 2013 アンコール13：天からの贈り物〉『天からの贈り物 小林村の悲劇』	15人
5月15日	〈フラハティと『アラン』〉『アラン島の小舟』『アラン』	36人
5月22日	〈ラテン・アメリカを見る〉『12タンゴブエノスアイレスへの往復切符』『生きて帰れてよかったね』	36人
6月19日	〈ポルトガルの光〉『アレンテージョ、めぐりあい』『失われた町のかたち』	28人
6月26日	〈まちのひかり—佐藤広一監督新作上映会〉『まちのひかり』『君に届けば〜まちのひかり』 『庄司芽生『君に届けば〜まちのひかり』出演記念メイキングムービー』 ※佐藤広一監督、佐藤直樹さん（出演者）来場	137人
7月10日	〈ニッポンのまつり〉『ニッポンの、みせものやさん』 ※奥谷洋一郎監督来場 	56人
7月24日	〈ヤマガタのまつり〉『昭和31年度山形まつり』『山形の旅〜夏編〜』『花笠踊考』	34人
8月7日	〈YIDFF 2015 をさらに楽しむために 1〉『不在の心象』『ジャスティス』	28人
8月28日	〈震災と映画〉『うたうひと』	32人
9月11日	〈YIDFF 2015 をさらに楽しむために 2〉『コロッサル・ユース』	19人
11月13日	〈私のなかのパレスティナ〉『我々のものではない世界』『密告者とその家族』	16人
11月27日	〈ナチス/記憶〉『精神の武器』『選択と運命』	21人
12月11日	〈YIDFF 2015 アンコール：6月の取引〉『6月の取引』『忘却』	15人
12月18日	〈大人と子ども：メキシコより〉『家族のかけら』『ママ・カレ』	20人
1月8日	〈YIDFF 2015 アンコール：青年★趙〉『青年★趙』『水没の前に』	36人
1月29日	〈小川紳介監督とやまがた〉『牧野物語・養蚕編』『牧野物語・峠』	126人
2月12日	〈YIDFF 2015 アンコール：ドリームキャッチャー〉『ドリームキャッチャー』 『イラン式離婚狂想曲』	53人
2月19日	〈クリミア、ロシア、人びと〉『アポロノフカ棧橋』『アルバト通りの人々』	41人
3月4日	〈311ドキュメンタリーアーカイブ選〉『それでも希望のタネをまく 福島農家2年目の試練』 ※深谷茂美監督トーク 聞き手：多田曜子さん（復興ボランティア支援センターやまがた）	51人
3月25日	〈ある家族のはなし〉『静かな空間』『築巢人 A Rolling Stone』	43人

## 山形大学図書館上映（不定期）

■山形大学との協力関係のもと、学生、教職員、周辺住民を対象として映画祭所蔵作品の上映会を行った。本年度は映画祭開催年ということもあり、1回のみで開催となってしまった。昨年度の開催から時間を経ての上映会であったが、平常通りの集客があり、本上映会が定着してきていることをうかがわせた。今回はドイツ歴史学がご専門の人文学部山崎彰教授に解説をお願いした。



山崎先生のドイツ留学時代の話も飛び出す

### 山形大学図書館上映会 特別版 『リヴィジョン／検証』上映会

**開催日：2016年1月29日【金】**  
**会場：山形大学小白川図書館シアタールーム**  
**入場者数：20人**



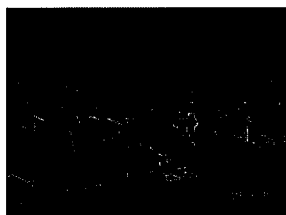
## 東日本大震災被災者を対象とした無料上映会

■東日本大震災で被災した方々に「映画」を無償で届ける活動を行った。当方を含む、趣旨に賛同した団体が構成する「シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」として、福島県を山形県映画センターと共同で担当。大手配給会社の協力のもとで『ポケットモンスター』シリーズなどの娯楽作品の上映会を開催した。

**総入場者数 782人**

**上映会件数 7件**

開催日	開催市町村	会場・上映作品	入場者数
7月11日	福島県伊達市梁川町	梁川小学校 『ドラえもん のび太の魔界大冒険』	159人
7月20日	福島県会津若松市	県立博物館講堂 『アナと雪の女王』	52人
8月1日	福島県南相馬市原町区	朝日座 『アナと雪の女王』	76人
8月1日	福島県南相馬市原町区	朝日座 『アナと雪の女王』	30人
11月3日	福島県相馬市	はまなす館 『ポケモン・ザ・ムービーXY』	285人
11月14日	福島県南相馬市原町区	朝日座 『STAND BY ME ドラえもん』	43人
2月14日	福島県南相馬市原町区	ひばり生涯学習センター 『ポケモン・ザ・ムービーXY』	137人



## 県内各地での山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 アフターイベント

■「世界のリアルに触れよう！」と題して、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 で招聘した映画監督等を山形県内の各所に派遣し、映画上映や講演を行うとともに各地の若者や地域の方々と生の交流を行った。平成27年度山形県NPO活動促進補助事業「やまがた社会貢献基金」助成。

### 実施内容

※【山形市内中学生団体鑑賞】については、21ページを参照。

#### 【ワークショップ】

開催日：10月15日【木】 会場：東根市立大森小学校

□90人の小学生がインドネシアの監督たちと「フィルムをつなげて映画を作ろう」ワークショップを体験した。海外の監督と共に貴重な芸術創作体験を行った。

#### 【『わたしはここにいる』上映&トーク】

開催日：10月15日【木】 会場：米沢市アクティ米沢

□米沢市民と共にインターナショナル・コンペティション作品『わたしはここにいる』を上映し、監督とのトークを開催した。地元のフォルクローレグループ米沢ケーナの会によるコンサートも合わせて行い、市民参加の国際文化交流を行った。

#### 【七軒映画祭「七映」】

開催日：10月15日【木】・16日【金】 会場：大江町里山交流館「やまさあべ」

□大江町職員と共に「七軒映画祭」を開催した。映画祭ゲスト監督を派遣して上映とトークを行った。

#### 【メキシコと出羽にこだまするもの】

開催日：10月16日【金】 会場：鶴岡まちなかキネマ

□上映会と交流トークを開催した。インターナショナル・コンペティション部門審査員のニコラス・エチェバリア監督（メキシコ）を派遣し、監督作「山の木霊」上映と交流トークを行った。また、監督が描いてきた世界とも共通することから、庄内在住の鷹匠や羽黒山伏との交流や出羽三山文化の紹介も合わせて行った。双方ともに非常に感銘深い体験となったようだ。

### 県外地域

※「やまがた社会貢献基金」助成事業以外のもの

□東京：【ドキュメンタリー映画から見る中東社会の日常】10月15日【木】 日本財団ビル2F

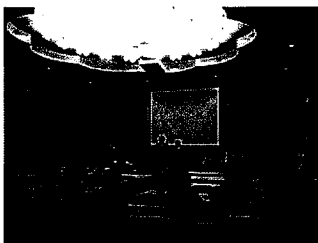
□東京：【アドリアーノ・アブラ ストローブ=ユイレを語る】10月15日【木】 アテネ・フランセ文化センター

□東京：【欧州ドキュメンタリー映画の今】10月16日【金】 上智大学四谷キャンパス中央図書館9FL911

□東京：【『わたしはここにいる』東京特別上映企画】10月16日【金】 オーディトリウム渋谷

□雄勝（宮城県）：【映画上映会&監督トークショー】10月17日【土】 オーリンクハウス

□東京：【アドリアーノ・アブラが選ぶイタリア映画ベストテン】10月17日【土】 イタリア文化会館



米沢、民族音楽コンサートも行われた



東根、子どもたちと一緒に給食を楽しむ



庄内、イベント後地元市民とご歓談

## (2) 青少年に対する映像教育の推進

### 映画教室・ワークショップの実施

鈴川ふれあい館子ども映画制作ワークショップ「コマどりでアニメーションをつくろう」

**開催日：2016年2月20日【土】**

**会場：鈴川ふれあい館**

**参加者数：6人（小1～5）**

■参考として日本の無声アニメーションの16mmフィルムを上映し、コマ撮りのしくみを解説、デジタルカメラによるコマ撮りアニメーションの制作を行なった。撮影後にスクリーンに投影して全員で鑑賞、後日編集して参加者にDVDを渡した。公民館の事業部員の皆さんや鈴川小学校の校長が子どもたちに促されて出演。とても良い雰囲気が出た。子どものワークショップとして、作品として面白かっただけでなく、「大人のワークショップ」に繋がるヒントにもなったのではないかな。



16mm映写機に興味津々！



大人も一緒にレッツダンス！



講師を務めた牧野貴さん（中央）



たくさん映画で遊びました

第7回 子どもの映画教室「てづくり3Dアートえいぞうをつくろう」

**開催日：2016年3月5日【土】**

**会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー**

**主催：一般財団法人山形コンベンションビューロー**

**認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭**

**協力：東北芸術工科大学**

**講師：牧野貴（映画作家/YIDFF 2015 審査員）**

**参加者：18名（小1～中1：9人、大人9人）**

**未就学児、保護者などの見学もあり**

**※当日の記録映像はYIDFF Webサイトに掲載**

■山形市、天童市、仙台市、名取市（新潟、東京から大人のみ）。第5回子どもの映画教室、2014年のシネマール東北ワークショップ@ライブラリー、2015年3月の「みんなで作る 子ども映画制作ワークショップ（講師：冨樫森）」経験者がそれぞれ1名。牧野貴氏による自己紹介と映画（フィルム）の仕組み解説、16mmフィルムのダイレクトペイント、16mmフィルムの上映時に映写機で読み取った音に変調をかけることでライブパフォーマンスを行なった。また3Dメガネをかけることで減光遅延方式の3D映像としても鑑賞した。牧野貴氏は世界各地でワークショップを行なっているが、子ども対象のワークショップは初。参加者も保護者も講師も一緒に楽しんでた。「ライブ・パフォーマンスとしての上映」というのは新たなアプローチとして新鮮だった。またそれぞれの作品や上映パフォーマンスは技術、経験や年齢の差がなく、年齢や国籍を問わず楽しめる。未就学児も参加して一生懸命サウンドトラックを描いていた。ライブラリー探検に関してもそれぞれ発見や驚きがあったようだ。



## 職場体験受け入れ

■山形市内の中学校からの要請を受け、映画祭事務局にて職場体験を受け入れた。若年層に対する映画祭の広報も兼ねる。2006年から継続して定期的に受け入れを行っている。



ライブラリーについて聞いてみよう

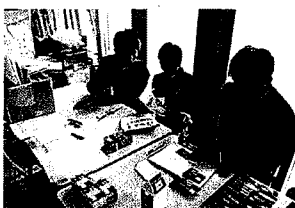


上映会の受付を初体験

### 山形市立第四中学校 (2名)

受入日：2015年5月13日～15日

体験内容：資料整理、上映会補助、資料印刷など



庶務作業の補助



ドキドキ映写体験

### 山形市立蔵王第一中学校 (3名)

受入日：2015年5月19日～21日

体験内容：資料整理、映写体験、映像制作など

## インターンシップ生受け入れ

■山形大学からインターンシップ生を受け入れ、事務局の日常的な事務作業、イベント運営補助等のサポート業務に任じ、必要なものについてはその実績評価を大学に報告した。映画祭開催年である本年は、実習終了後もボランティアとして映画祭の各現場で活動した。

### 山形大学

- ・山形大学人文学部3年：2名

期間：2015年8月17日～8月21日

主な業務：広報活動（マスコミ訪問）、上映会運営補助、事務作業全般、パネル展示用装飾作成

- ・山形大学人文学部2年：1名

期間：2015年6月末～8月末

主な業務：広報活動（マスコミ訪問）、事務作業全般、パネル展示用装飾作成

## [6] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業

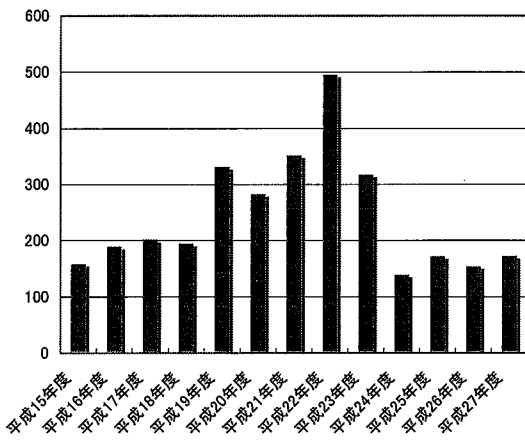
### (1) ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービス

■ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービスを市民に提供した。

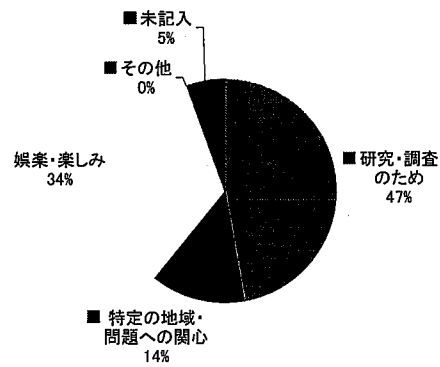
**年間利用者数 173人 (前年比122.3%)**

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用者数	159	190	202	195	332	233	352
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
利用者数	496	318	139	172	154	173	

ビデオブース利用者



【2015利用目的別集計グラフ】



## (2) 作品貸出リスト普及と貸出推進

### ◇県内での作品紹介・普及活動

■県内の各団体を直接訪問し、貸出可能な収蔵作品リストを通じ、上映促進を図った。特定非営利活動法人 遅筆堂文庫（川西町フレンドリープラザ）が定期的な映画祭作品の上映を企画しており、平成28年度より開催を行うことで話が進んでいる。また、寒河江市でも定期上映会を開催すべく、佐藤繊維株式会社が経営するセレクトショップGEAと交渉を行っている。

### ◇全国の作品貸出拡大

■公式ウェブサイトなどを通じ、日本国内及び海外へ作品貸出を呼びかけた。

**年間貸出件数 16件** (前年比84.2%)

**年間貸出作品数 27作品** (前年比81.8%)

**貸出料総計 828,000円** (前年比75.8%)

※うち正会員割引2件、複数貸出による割引3件

貸出先：山形、宮城、東京、神奈川、京都、大阪、兵庫、広島、福岡、沖縄  
自主上映、上映施設、美術系専門学校、大学、研究機関等

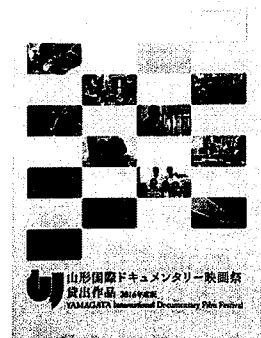
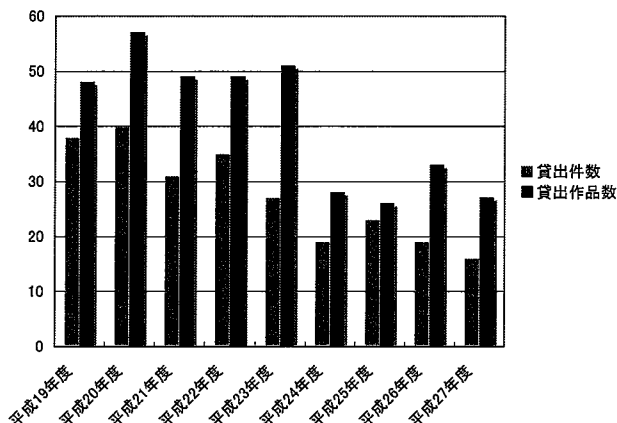
非商業上映権を有しているドキュメンタリー映画の貸出や上映などによる収益の半分を制作者へ還元

【還元：14件】 (監督個人及び製作・配給会社/複数作品について権利を保持しているケースがあり、作品数と還元件数は一致しない)

■権利者の申出により還元金の本法人への寄付1件（『天からの贈り物』）。所蔵作品についての情報をWebサイトに掲載し、必要に応じて作品貸出リストを郵送した。映画祭2015で上映し、合意を得た作品について所蔵し、新規作品を含む貸出作品の冊子を作成した。

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
貸出件数	33	40	31	35	27	19	23
貸出作品数	43	57	49	49	51	23	26
	平成26年度	平成27年度					
貸出件数	19	16					
貸出作品数	33	27					

ライブラリー作品年間貸出件数



作品貸出リスト [2016年版]

### (3) 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー施設見学

■平成26年度に引き続き、山形市が主催する施設見学会の受け入れを行い、収蔵作品（山形市所蔵フィルム）を上映した。また、3月の「子ども映画教室」において施設見学の時間を設け、参加者や保護者に施設を案内した。

□6月12日受け入れ 9人

□7月2日受け入れ 35人

### (4) 山形の古い映像資料の発掘・修復

■土蔵や小屋などに眠っているフィルムの発掘のために、チラシなどを配布して呼びかけを行ったが、平成27年度は目立った成果はあがらなかった。今後は各行政団体にも呼びかけ、市報などを効果的に使った広報を展開していく必要があるだろう。平成28年度に計画化していく。

### (5) 所蔵作品に基づく研究活動とサポート



#### 山形大学人文学部によるライブラリー収蔵作品を資料とした学術的研究の補助

■山形大学人文学部付属映像文化研究所により、平成26年度よりライブラリーの収蔵作品を元に台湾ドキュメンタリー映画について研究が進められてきた。平成27年度は映画祭開催と合わせて台湾映画特集上映を企画し、当法人が運営補助を行った。

#### 【映像は語る—ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影】

日程：10月9日 [金]、10日 [土]、11日 [日]

会場：遊学館ホール 内容：上映作品11作品、トーク3、講演4、シンポ1

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| 1 〈金馬獎と映画史から見る戦後台湾〉   | 1作品上映、監督トーク |
| 2 〈若者たちの自分探し〉         | 2作品上映       |
| 3 〈障害と共存する〉           | 1作品上映       |
| 4 〈女性・ジェンダー・セクシュアリティ〉 | 1作品上映、監督トーク |
| 5 〈震災のあとは〉            | 1作品上映       |
| 6 〈庶民と台湾の地〉           | 1作品上映       |
| 7 〈楽しき老年時代〉           | 1作品上映       |
| 8 〈先住民映像作家〉           | 2作品上映、監督トーク |
| 9 〈異郷／故郷〉             | 1作品上映       |

## [7] 映像文化推進事業

**平成27年度売上実績 1,676,370円 (前年比30.9%)**

■映像文化の推進を目的として、県内外各地に向けて自主上映の活性化を働きかける営業活動及び請負による映写業務等映画上映に関わる業務を展開した。また、そこでの関係の構築を通して、映画祭の広報宣伝を含めたPR活動を行った。本年度は映画祭開催年であったため、担当者が本事業に関して積極的営業活動を行うことができず、前年度を大きく下回った。本年度売上実績は映画祭終了後に上げたものがほとんどとなっている。そのため、赤字決算となった。今後は開催年での活動をどのようにプランニングしていくかが重要な課題である。

### (1) 映像ソフト・機器普及事業

■県内の視聴覚ライブラリーや行政、教育機関、各種団体に対して、映像ソフト及び映像機器等を紹介し、販売を行った。納入機材については修理及びメンテナンスを行った。

□映像ソフトの販売 DVDケース：1件

○主な取引先：上山市教育委員会

### (2) 上映サポート事業

■映画「無音の叫び声」や映画祭で上映された話題性の高い日本作品などを県内各地に紹介し、上映促進をサポートした。また、上映会を設定した箇所については設定手数料を受け取った。

□上映会設定数：5件

### (3) 映写業務

■所有する機材やスタッフの技術力を活かし、有料にて映写業務を請負った。

□映写請負業務件数：17件

### (4) 映像製作

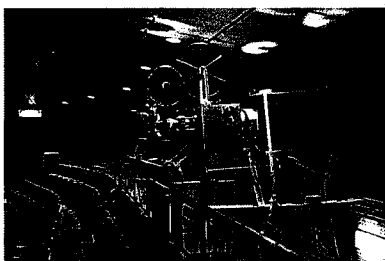
■平成27年度は映像製作の請負はなかった。

□映像製作請負業務件数：0件

### (5) その他

■映写機およびプロジェクタ等の機材の修理、メンテナンスを有料にて行った。

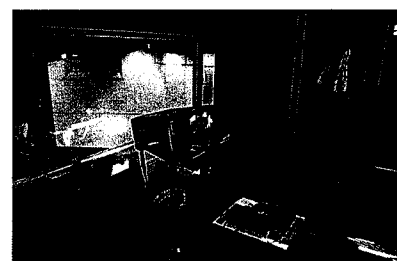
□機材修理・メンテナンス件数：3件



35mm映写機による上映



映写は反射神経と俊敏さが命



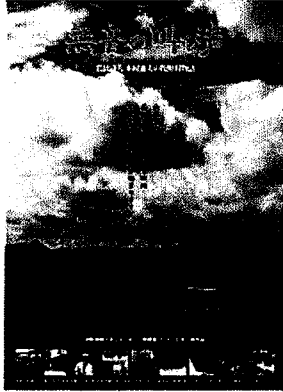
プロジェクタによるビデオ上映もやっています

## [8] ネットワーク構築事業

### (1) ドキュメンタリー作品の上映推進

■年間を通して、県内各地で行われたドキュメンタリー作品上映に関わり、市民・県民がドキュメンタリー映画に親しむ機会の創出を促した。

#### ドキュメンタリー映画『無音の叫び声 農民詩人木村迪夫の牧野村物語』



木村さんの想いが込められた話題作

■一般の市民や山形の企業や団体が結集し自主的に製作委員会を立上げ、全国からの製作支援金を集め、足掛け5年の準備期間を経て山形からひとつの映画を完成させた。上山に住み、反戦の意思や農と人の係わり問いかけてきた木村迪夫の詩作と人生を辿りながら戦後日本の農業史を見つめ直そうとする映画を、戦後70年に開催された本映画祭2015で初公開できたことは意義深いことだった。完成した作品は、市民による製作委員会が引き続き全国配給を担い、当映画祭も、県内各地や隣県での上映設定や映写等の事業として係わり、作品の展開普及を支えている。

開催日	開催場所	入場者数
2015年10月12日	山形市民会館大ホール@山形国際ドキュメンタリー映画祭公式上映	1,050人
2016年1月23日～2月12日	フォーラム山形	1,096人
2016年3月5日～3月18日	フォーラム東根	122人
2016年3月5日	上山エコーホール	772人
2016年3月15日	酒田希望ホール (小)	100人

#### その他

開催日	上映作品・主催	入場者数
2016年1月23日	『戦場ぬしみ』@上山市民平和のつどい実行委員会	200人
2016年3月6日	『放射線を浴びたX年後』『天に栄える村』@白鷹学	50人
2016年3月12日	『山形鑄物 暮しのデザインを求めて』@山形県民芸展	150人
2016年3月23日	『山形鑄物 暮しのデザインを求めて』@第6回「雪調」に学ぶ会	100人

### (2) 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー及び収蔵作品についての情報発信

■YIDFF 2015 インターナショナル・コンペティション上映作品より、『祖国—イラク零年』『6月の取引』『青年★趙』『ドリームキャッチャー』『いつもそこにあるもの』『女たち彼女たち』『パラグアイ記憶の断片』、アジア千波万波の16作品、山形大学企画台湾作品の4作品について、本法人より国内非営利上映向けに貸出を行う旨、各権利者と合意書を取り交わした。これに伴い、ウェブ版 (HTML版、pdf版) 及び冊子版の貸出作品リストを作成。冊子版は500部作成し、国内の上映関連施設、機関、大学等に配布する。

※関連事項は [4] フォルムライブラリー活用・作品貸出事業の項目を参照。

### (3) 映画祭ネットワークの構築

■国内外の映画祭とのネットワークを築くべく、各種の活動を行った。

#### 【ソウルインディペンデントドキュメンタリービデオ&映画祭2016への招待】

日程：3月27日～30日 場所：ソウル

□畑事務局員が酒井耕監督、「ともにある」コーディネーター小川直人氏と共に、東日本大震災関連作品アーカイブ事業に関してなど専門的な見地を述べるべくオープントークに招かれた。韓国インディペンデントドキュメンタリー界の動向についての情報収集および人脈形成を行った。またソウルのコミュニティメディアセンターMediACTなどを見学した。

#### 【なら国際映画祭スタッフの当映画祭へのリーダースタッフ参加】

日程：10月8日～15日 担当会場：山形美術館

□当映画祭をモデルに河瀬直美監督が主導で立ち上げた「なら国際映画祭」スタッフ2名をリーダースタッフとして雇い入れ、山形美術館会場を担当してもらった。映画祭運営業務を日常的に行い、当映画祭とも業務内容を共有するスタッフであったので、当映画祭の現場を体感してもらう上でも非常に有意義であった。次回の「なら国際映画祭」へ当映画祭スタッフを派遣するという相互交流も想定される。

## [9] 出版事業

※本年は映画祭開催年であったため、【4】山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 の開催

◎各種出版物の製作と販売の項に同じ

## [10] YIDFF 311 ドキュメンタリーフィルムアーカイブ事業

■平成26年11月に開設した、東日本大震災に関わる記録映画を収集・保存する「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」（データベース：<http://www.yidff311docs.jp>）は、本年度も順調に登録作品を増やし、平成28年3月末で本登録74作品、内諾済みをあわせると78作品となっている。海外からの問合せも増えているが、本アーカイブの登録作品リストが全米大学図書館ネットワークにて配布され、ミシガン大学のサポートで日本国内の書店が取扱代理店となり、米国の各大学図書館が作品映像ソフトの購入手続きを簡単に行なえるようになった。そのルートで既に多くの作品が米国で購入されている。また国内でも、アーカイブを参考に作品が選ばれ、福島などで上映会が行なわれている。

□本アーカイブに関連した映画祭主催の上映活動としては、以下のイベントを行なった。

#### @ 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015

■山形国際ドキュメンタリー映画祭2015「ともにある Cinema with Us」（10月10-13日、於：山形美術館）にて、主に新しく製作された関連10作品を上映した（うち1作品はアーカイブ登録作品）。また、ディスカッションイベントも行ない、「映画／映像アーカイブは私たちをどう動かすのか」と題し、ゲストの識者3名をお招きしてアーカイブの未来について会場とディスカッションを行なった。

## @ 金曜上映会

■毎月開催している「金曜上映会」の枠で、8月28日と3月4日に関連作品上映会を行なった（於：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室）。8月は登録予定作品（内諾済み）の『うたうひと』（酒井耕、濱口竜介監督）を、また3月は震災から丸5年を迎える記念プログラムとして、登録作品『それでも希望のタネをまく～福島農家2年目の試練』を上映、ゲストにディレクターのテレビユー福島・深谷茂美さんと、聞き手に復興ボランティア支援センターやまがたの多田曜子さんをお迎えし、上映後に福島農家の現状と直面している問題についてお話いただいた。会場は満席に近く、感想・発言も多く出て盛り上がった。

### 【「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」の事業内容】

- ① 山形市平久保にある山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー内に「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」を設置。東日本大震災に関わる記録映画の保存用上映素材を継続して収集、永続的に保存する。
- ② 広報物など作品関連資料がある場合、それらをライブラリー館内で保存・閲覧可とするとともに、館内の視聴用ビデオブースにて作品の個人視聴の場を提供している。
- ③ 作品のデータベースとして機能する専用ウェブサイトを開設（<http://www.yidff311docs.jp>）。日英両言語のサイトとし、世界各地からの作品情報へのアクセスを可能にしている。作品情報は今後も常時収集し、更新される。

**助成：平成27年度公益信託荘内銀行ふるさと創造基金**  
**平成27年度公益社団法人企業メセナ協議会GBFund**  
**平成27年度公益財団法人カメイ社会教育振興財団**

## [11] 映像文化創造都市推進活動

■山形市のユネスコ映像文化創造都市加盟に向けて、山形市文化振興課と共に会議や講演会への参加・交流・人脈構築、および創造都市への理解を深める活動を行った。

### 【映像文化創造都市に関する会議】

- (1) 2015年4月21日 創造都市推進協議会準備委員会@山形市役所1001会議室
- (2) 4月27日 創造都市関係部課長会議@山形市役所701A会議室
- (3) 4月30日 山形市創造都市推進協議会総会@山形市役所1101会議室
- (4) 4月30日 佐々木雅幸氏による特別講演会@山形市役所大会議室
- (5) 5月25日 世界創造都市シンポジウム@ホテル日航金沢
- (6) 7月 9日 第2回創造都市推進協議会@山形商工会議所 5階大ホール
- (7) 9月 9日 創造都市政策セミナーin大分 @大分市（文化振興課参加）
- (8) 10月16日 文化振興課による先進市視察@鶴岡市
- (9) 12月11日 創造都市結果公表@山形市役所庁内
- (10) 2016年2月4日 創造都市事業打合せ@山形市役所庁内
- (11) 2月23日 創造都市事業打合せ@山形市役所庁内
- (12) 2月26日 平成27年度創造都市ネットワーク会議@金沢市
- (13) 3月 9日 創造都市事業打合せ@山形市役所庁内
- (14) 3月11日 第3回創造都市推進協議会@山形商工会議所 5階第ホール
- (15) 3月26日 東アジア文化都市奈良市 オープニング視察（文化振興課参加）@奈良市

### 【ユネスコ創造都市国際ネットワーク申請と結果について】

□YIDFF 2013の閉会宣言以来、山形市の映画分野におけるユネスコ創造都市国際ネットワーク加盟をひとつの目標として、山形市等とも協力しながら様々な活動を行ってきた。特に2015年度、当法人は国際ネットワーク加盟の申請書類作成や事業立案など具体的活動の核を担い、当映画祭の実績や地域の多様な映像文化活動の歴史をまとめ、次の時代の映像文化による地域創造のビジョン作りを進めてきた。途中、ユネスコによる加盟申請書類フォーマットや審査方法の変更があり、当方も協力して作り上げた申請書類の再構築を余儀なくされたが、平成27年7月15日、山形市文化振興課より英文の加盟申請書が送られ、受理された。映画祭2015開催を挟み、12月11日、結果の発表があり加盟は見送られた。

今後、山形は国際社会への映像文化での貢献や創造都市国際ネットワークとの連携の方法・事業を磨く必要があり、私たちの活動には映像文化による地域の活性化と、より積極的な国際貢献が求められていることを実感する。山形市の体制の変化はあったが、創造都市推進は市制方針にも位置づけられており、次年度も様々な団体と連携を図りながら映像文化活動による生き生きとした地域作りを進めて行く。

## [12] 映像（撮影・上映）素材デジタル化に伴う研究活動への協力

■東北芸術工科大学が日本学術振興会による科学研究費助成に採択された「デジタルシネマ時代における小規模映画の上映形式の研究」について、研究調査の支援を行った。主には映画祭開催会場での上映と研究発表の補助、上映付きディスカッションイベントでの映写機材及び映写業務提供などである。研究プロジェクトは4ヶ年計画であり、平成28年度は最終年度にあたる。残りの1年も継続して協力を行っていく予定である。

### インディペンデント映画のDCP上映研究 @ 山形国際ドキュメンタリー映画祭

**会場：山形美術館 展示室5 フォーラム山形 3番館**

**日程：10月12日・13日**

□山形美術館を会場にして行なわれた講演とシンポジウムについて会場と機材提供を行った。

### 〈ディスカッションと上映〉デジタルシネマ時代のインディペンデント

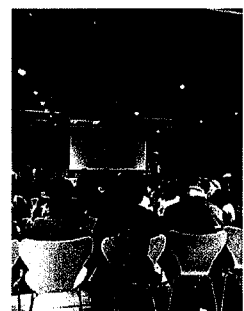
**会場：とんがりビル1F イベントスペースkuguru**

**日程：3月5日・6日**

□企画運営補助および上映に関する映写機材と映写業務を提供した。



ディスカッションの様子



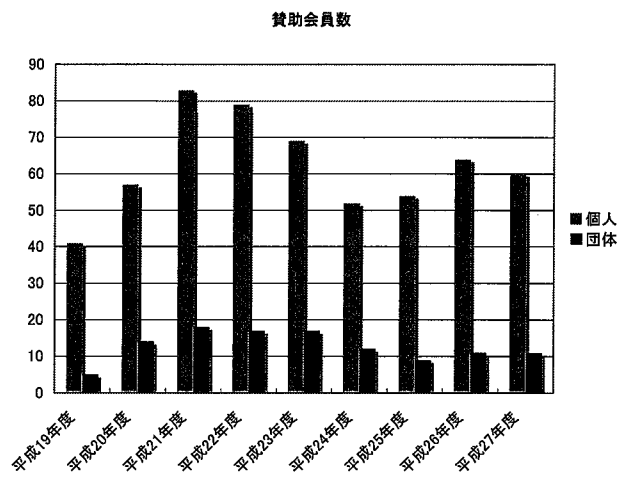
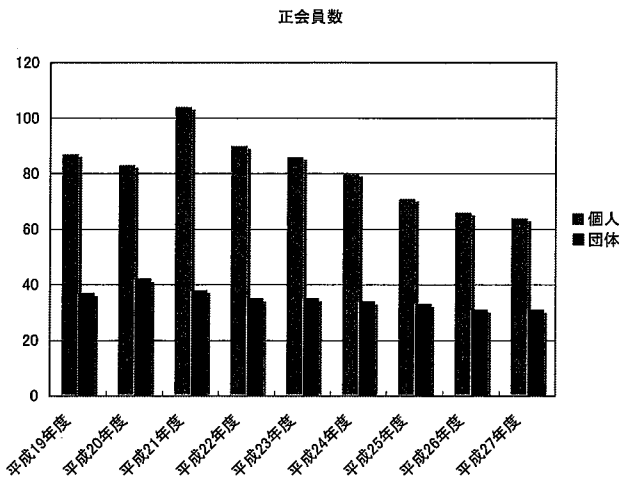
上映会は満席の大盛況



# [13] 正会員・賛助会員の拡大

**正会員数 95件 [団体31・個人64] (前年比97.9%)**

**賛助会員数 71件 [団体11・個人60] (前年比94.7%)**



正会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	87	83	104	90	86	80	71
団体	37	42	38	35	35	34	33
	平成26年度	平成27年度					
個人	66	64					
団体	31	31					

賛助会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	41	57	83	79	69	52	54
団体	5	14	18	17	17	12	9
	平成26年度	平成27年度					
個人	64	60					
団体	11	11					

## (1) 正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレット普及

■正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレットを作成し、イベント時の一般市民への配布や映画祭期間中の観客への配布・会場設置などを行い、会員拡大を図った。

## (2) 市内・県内における直接的入会の呼びかけ

■映画祭の広報活動・チケット販売依頼や企業協賛依頼などと兼ね合わせ、山形県内の各地で会員勧誘を行った。



### (3) 会報の発行

■会報については、年度当初は一回の発行を計画していたが、次年度において山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開催を子細に報告する会員及び一般向け冊子発行の計画が発生したため、この冊子と会報を一本化することが明らかに得策であると考えられるため、見送ることにした。

## [14] 寄付募集活動

**寄付金総額 567,779円 (前年比 134.7%)**

■今年度は映画祭開催に向けた企業協賛回りの際に、認定NPO法人への寄付が税制控除の対象であることをアピールしながら寄付に関する情報の拡散に努めた。その効果もあり、広告協賛ではなく寄付という形で資金提供を申し出る企業があった。また公式サイト上に新たに「支援する」ページを作成し、当法人に寄付を行うことが広く社会貢献につながることを明確に告知した。

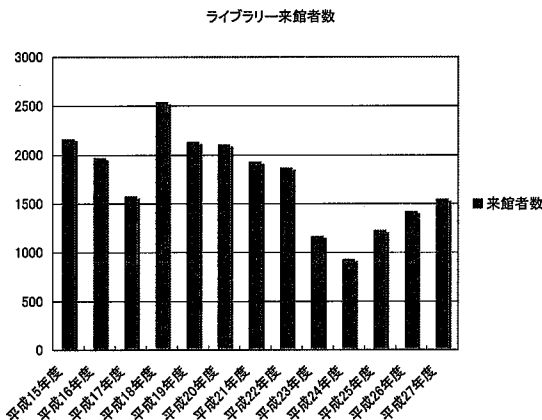


寄付募集リーフレット

## [15] 山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー管理業務

■財団法人山形コンベンションビューローより、山形ビッグウイング3Fの山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリーの管理業務を受託し、委託業務を遂行した。

**館内利用者 1,425人 (前年比115.8%)**



およそ9,000本が誰でも無料で鑑賞できる

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
来館者数	2166	1972	1580	2542	2136	2110	1933
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
来館者数	1871	1172	933	1231	1425	1552	

# 収 支 計 算 書

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
<b>【Ⅰ 収入の部】</b>				
1 会 費 収 入	[ 2,640,000 ]	[ 2,540,000 ]	[ 100,000 ]	
正 会 員 会 費 収 入	1,620,000	1,580,000	40,000	
賛 助 会 員 会 費 収 入	1,020,000	960,000	60,000	
2 寄 付 金 収 入	[ 655,000 ]	[ 567,799 ]	[ 87,201 ]	
一 般 寄 付 金	655,000	567,799	87,201	
3 事 業 収 入	[ 25,637,000 ]	[ 22,344,339 ]	[ 3,292,661 ]	
映 画 祭 事 業	20,250,000	19,525,086	724,914	
映 像 文 化 推 進 事 業	4,333,000	1,857,253	2,475,747	
上 映 会 ・ ラ イ ブ ラ リ ー 事 業	1,000,000	952,000	48,000	
そ の 他 事 業	54,000	10,000	44,000	
4 補 助 金 等 収 入	[ 126,073,000 ]	[ 125,921,159 ]	[ 151,841 ]	
山 形 市 補 助 金	100,000,000	99,848,159	151,841	
芸 術 文 化 振 興 基 金 収 入	18,000,000	18,000,000	0	
そ の 他 助 成 金 収 入	8,073,000	8,073,000	0	
5 受 託 金	[ 2,056,000 ]	[ 2,055,780 ]	[ 220 ]	
受 託 金	2,056,000	2,055,780	220	
6 雑 収 入	[ 0 ]	[ 10,108 ]	[ △ 10,108 ]	
雑 収 入	0	10,108	△ 10,108	
経 常 収 入 合 計	157,061,000	153,439,185	3,621,815	
<b>【Ⅱ 支出の部】</b>				
1 事 業 費	[ 145,862,000 ]	[ 143,634,204 ]	[ 2,227,796 ]	
(1) 映 画 祭 事 業 費	( 135,832,000 )	( 135,297,694 )	( 534,306 )	
給 料	15,478,000	15,469,400	8,600	
臨 時 雇 賃 金	5,482,000	5,447,852	34,148	
福 利 厚 生 費	2,791,000	2,759,351	31,649	
会 議 費	110,000	109,514	486	
旅 費 交 通 費	10,590,000	10,521,783	68,217	
通 信 運 搬 費	1,330,000	1,257,092	72,908	
消 耗 品 費	940,000	919,191	20,809	
印 刷 製 本 費	2,954,000	2,871,932	82,068	
賃 借 料	10,027,000	9,969,097	57,903	
保 険 料	87,000	50,000	37,000	
諸 謝 礼 金	7,891,000	7,890,402	598	
委 託 費	76,592,000	76,541,083	50,917	
レ セ プ シ ョ ン 経 費	723,000	722,842	158	
食 糧 費	837,000	768,155	68,845	
(2) 映 像 文 化 推 進 事 業 費	( 4,333,000 )	( 3,126,452 )	( 1,206,548 )	
給 料	1,896,000	1,896,000	0	
福 利 厚 生 費	326,000	322,589	3,411	
旅 費 交 通 費	100,000	0	100,000	
通 信 運 搬 費	50,000	6,979	43,021	
消 耗 品 費	200,000	49,980	150,020	
印 刷 製 本 費	50,000	39,360	10,640	
賃 借 料	1,118,000	540,132	577,868	
保 険 料	130,000	107,030	22,970	
諸 謝 礼 金	50,000	6,000	44,000	
交 際 費	50,000	32,947	17,053	
委 託 費	128,000	103,385	24,615	
ソ フ ト 販 売 仕 入 費	100,000	7,750	92,250	
映 像 機 器 仕 入 費	100,000	0	100,000	
租 税 公 課	35,000	14,300	20,700	
(3) 上 映 会 ・ ラ イ ブ ラ リ ー 事 業 費	( 3,641,000 )	( 3,431,506 )	( 209,494 )	
給 料	1,902,000	1,901,400	600	
福 利 厚 生 費	329,000	325,520	3,480	
旅 費 交 通 費	60,000	35,980	24,020	

科 目					予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
	通 信	運 搬	費		90,000	77,704	12,296	
	消 耗	品	費		70,000	49,027	20,973	
	印 刷	製 本	費		120,000	88,020	31,980	
	賃 借		料		430,000	371,700	58,300	
	諸 謝	礼	金		520,000	489,685	30,315	
	委 託		費		120,000	92,470	27,530	
(4)	ラ イ ブ	リ ー	受 託	事 業	( 2,056,000 )	( 1,778,552 )	( 277,448 )	
	臨 時	雇 員	賃 金		1,741,000	1,525,624	215,376	
	福 利	厚 給	費		254,000	245,590	8,410	
	消 耗	品	費		61,000	7,338	53,662	
2	管 理		費		[ 11,199,000 ]	[ 10,826,952 ]	[ 372,048 ]	
	給 福	利	生	料	5,301,000	5,300,400	600	
	会 社	費	通	費	1,193,000	1,183,263	9,737	
	旅 通	交 運	搬	費	10,000	7,400	2,600	
	消 耗	品	費	費	620,000	584,618	35,382	
	印 刷	製 本	費	費	357,000	328,913	28,087	
	修 繕		費	費	502,000	404,180	97,820	
	水 道	光 熱	費	費	217,000	197,208	19,792	
	賃 借	料	費	費	120,000	25,261	94,739	
	保 險	公	料	課	540,000	504,869	35,131	
	租 税	託	費	費	912,000	891,200	20,800	
	委 託		料	課	17,000	15,840	1,160	
	雜 費		費	費	581,000	566,400	14,600	
			費	費	650,000	638,400	11,600	
			費	費	179,000	179,000	0	
	經常支出合計				157,061,000	154,461,156	2,599,844	
	經常収支差額				0	△ 1,021,971	1,021,971	
	【Ⅲ その他資金収入の部】							
	1	開 催 準 備 特 定 預 金 取 崩 収 入			[ 1,500,000 ]	[ 1,500,000 ]	[ 0 ]	
		その他資金収入合計			1,500,000	1,500,000	0	
	【Ⅳ その他資金支出の部】							
	1	開 催 準 備 特 定 預 金 へ 支 出			[ 404,238 ]	[ 404,238 ]	[ 0 ]	
		その他資金支出合計			404,238	404,238	0	
	当期収支差額				1,095,762	73,791	1,021,971	
	前期繰越収支差額				404,238	404,238	0	
	次期繰越収支差額				1,500,000	478,029	1,021,971	

貸借対照表

平成28年3月31日現在

一般会計

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>【資産の部】</b>		
流動資産		
現 金 預 金	1,510,193	
貯 蔵 品	1,407,357	
未 収 金	1,101,042	
流動資産合計		4,018,592
固定資産		
その他の固定資産		
建 物	1,122,363	
車 両 運 搬 具	1	
什 器 備 品	3	
開 催 準 備 特 定 預 金	4,059,013	
その他の固定資産合計	5,181,380	
固定資産合計		5,181,380
資産合計		9,199,972
<b>【負債の部】</b>		
流動負債		
未 払 金	2,133,206	
流動負債合計		2,133,206
負債合計		2,133,206
<b>【正味財産の部】</b>		
正味財産		7,066,766
(うち当期正味財産減少額)		( 627,270)
負債及び正味財産合計		9,199,972

## 財 産 目 録

平成28年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	1,510,193		
普通預金 1 山形銀行 山形市役所支店	1,229,550		
普通預金 2 山形銀行 山形市役所支店	270,643		
ゆうちょ銀行 振替口座	10,000		
普通預金 荘内銀行 山形営業部	0		
貯蔵品 出版書籍 他	1,407,357		
未収金	1,101,042		
助成金	500,000		
映像文化推進事業	249,727		
フィルムライブラリー受託金 (山形コンベンションビューロー)	171,315		
映画祭事業	100,000		
作品貸出料	30,000		
正会員・賛助会員会費	50,000		
流動資産合計		4,018,592	
2 固定資産			
建物 事務所内装	1,122,363		
車両運搬具 ニッサンAD	1		
什器備品 (プロジェクター3台)	3		
開催準備特定預金 普通預金 山形銀行 山形市役所支店	4,059,013		
固定資産合計		5,181,380	
資産合計			9,199,972
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	2,133,206		
翻訳謝礼	770,180		
臨時雇賃金	292,984		
社会保険事業主負担分	277,336		
フィルム貸出料製作者還元分	224,625		
概算補助金返還額 (山形市)	151,841		
映像文化推進事業	145,237		
その他	271,003		
流動負債合計		2,133,206	
負債合計			2,133,206
正味財産			7,066,766